

●太政官布告第四十三號 (明治十五年八月十二日)

徵發令

徵發令別冊ノ通制定ス

(別冊)

徵發令

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動かスニ方
リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス
但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

- 一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官
- 二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ
軍隊長
- 三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令官長官艦隊司令官分遣艦長若クハ操練及ヒ航
海ノ艦隊司令官又ハ艦長

徵發令

- 第四條 徵發ス可キモノ、種類ニ依リ徵發區會社モ之ヲ定ムルコト左ノ如シニ准ス
- 一 第十二條第一項ハ 府 縣
 - 二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ 郡 區
 - 三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ 町 村
 - 四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ汽車ハ 會 社
- 第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル
- 第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ
- 第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス
- 第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス
- 第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戶長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲スヘシ

- 第十條 徵發ヲ課セラレタルモノノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得
- 第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ
- 第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ
- 一 米麥秣藁鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭
 - 二 乘馬駄馬駕馬車輛運搬ニ供スル獸類及ヒ器具
 - 三 人夫
 - 四 宿舍廐圍及ヒ倉庫
 - 五 飲水石炭
 - 六 船舶
 - 七 鐵道汽車
 - 八 演習ニ要スル地所
 - 九 演習ニ要スル材料器具
- 第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノ、外徵發ス可キ

モノ左ノ如シ

但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス

- 一 造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具
- 二 職工鑛夫洗濯人ノ類
- 三 被服裝具艸鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及ヒ綳帶具
- 四 水車搗春ノ類
- 五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 皇族所用ノ車馬
- 二 外國公使館並ニ領事館ニ屬スル車馬
- 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
- 四 郵便用ノ車馬
- 五 公認セラレタル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 公務ニ屬スル麻署

二 皇族ノ邸宅

三 外國公使館領事館及ヒ其所屬館

四 鐵道電信郵便用ノ建造物

五 陸海軍將校並ニ同等官現在ノ家屋

六 博物館書籍館

七 病院盲啞院棄兒院

八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス

九 製造場内機械室

第十六條 第十二條第二項ニ掲クルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許

サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス

第十七條 第十二條第二項ニ掲クルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用
スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ
六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ合圍地境內ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ
營業ニ必用ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラ

ス

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編成トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時摘宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアル可シ

第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ移轉セシムルコトヲ許サス廐圍倉庫亦同シ

第二十二條 宿舍廐圍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ニ際ニ限ル但船橋及ヒ舢舨ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ属スル汽車其属具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ニ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境内ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求スヘシ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ付キ供給

者ト熟議調和セザルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戸長ニ届出可シ
其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越エ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限中持
主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

一 西洋形船舶 七日間

二 地所 評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件 一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ケ年間ノ平均
價ヲ取リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件
ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シ
テ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ
六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラス賃價ノ半額ヲ前給
シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使
用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置クヘシ其金額ニ就キ供
給者ト熟議調和セザルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第二十
六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ
區別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿テタル
以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ
等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セザルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航泊實費及ヒ

船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ

第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ舳船ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第

三項ニ准ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常

ノ定賃トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ

其他平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價

委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變

更シタルトキニ限り賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料

ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價

若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定

ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第二十

六條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明

渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘

導シタルモノハ一年以上以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長

其處置ヲ爲サルモノハ二年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ

罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲忘ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル

官憲徵發書ヲ出シタルキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

●太政官布達第二十六號 (明治十五年十二月十八日)

徵發事務條例

徵發事務條例別冊ノ通之ヲ定ム

(別冊)

徵發事務條例

第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムルモノトス

第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給方ヲ酌量シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ徵發書ヲ出ス可シ

第三條 徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ徵發スルコトヲ得

第四條 徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長艦隊司令長官ハ時機ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出ヌノ權ヲ分任スルコトヲ得

第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中ニ掲クル特命司令官艦隊司令官分遣艦長ハ其獨立中ニ限り徵

發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖モ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セラレタルキハ徵發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令官ノミ之ヲ有ス

第六條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團隊ヲ統フル長以上ヲ言ヒ第三項中ニ掲クル操練及ヒ航海ノ艦隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長ヲ言ヒ艦長トハ先任艦長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖トモ其部下ノ團隊若クハ各艦往返發著ノ地ヲ異ニスルトキハ往返中ニ限り其團隊長若クハ艦長各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

徵發令第三條第二項中ニ掲クル師團長ニハ近衛都督、旅團長ニハ屯田兵司令官ヲ包含ス

第七條 徵發ニ應シタル人員ハ勉メテ彈丸ノ達セサル場所ニ於テ之ヲ使用ス可シ

第八條 徵發物件其徵發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戶長及ビ證人二人 其町村内ニ住スル親族又ハ預リ主又ハ同立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシム可シ

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ徵發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第

廿三年九月
廿九日
百九十六號
參看

一項中造船所工作所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應ス可キ人員亦同シ

第十條 徵發書ハ徵發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付ス可キモノヲ町村ニ付シ店長ニ付ス可キモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ

右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徵發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徵發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徵發書ヲ用ヒス本人ニ受領證票ヲ交付スルニ止ル

本條ノ場合ニ於テハ徵發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ店長ニ其旨ヲ通知スヘシ

徵發令第十二條第二項ノ物件ニ限り場合ニ依リ徵發書ヲ北海道廳長官府縣知事ニ付スルコトヲ得

第十一條 徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ晝夜ヲ別タス速ニ其處置ヲ爲ス可シ

第十二條 徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ケ可キ官憲ニ報告ス可シ

町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事縣令ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキハ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戶長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令ニ速ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ陸海軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ檢査セシムルコトアル可シ

郡區長府知事縣令其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事縣令ハ他ノ郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條 府知事縣令徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官憲ニ報告ス可シ

第十四條 府知事縣令郡區長及ヒ戶長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條 徵發ヲ課セラレタルモノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖トモ正當ノ事由ヲ證明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス

第十六條 徵發令第十一條ニ掲クル受領證票ハ附錄第二號雛形ニ依リ調製ス可シ

第十七條 受領證票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ属スル物件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ徵用濟ノ後之ヲ交付ス可シ但徵用濟ノ後交付スル場合ニ於テハ同令第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項及ヒ第五項ニ掲クルモノヲ除クノ外當初領收ノ際假受領證ヲ交付ス可シ

第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及ヒ第十三條第二項ニ掲クルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ並ニ同令第十二條第六項ニ掲クルモノ舢舨及ヒ船ヲ借切トシテ徵用スルトキハ特ニ本人若クハ操業者ニ受領證票ヲ交付スルコトアル可シ

第十九條 徵用十五日以上ニ及フモノハ一個月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領證票ヲ交付ス可シ

第二十條 徵發令第十二條第一項ニ掲クルモノ、徵發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尙ホ完全セサルトキニ限り他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陥ヒラサシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖

モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ

二 他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量

三 秣藁ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條 郡區市長島司ハ陸軍省ノ定ムル雛形ニ依リ各區域内ニ於ケル家屋、人口、職業、建物、船舶等ニ關スル表ヲ調製シ之ヲ北海道廳府縣廳ニ差出スヘシ

鐵道局長及鐵道會社長ハ陸軍省ノ定ムル雛形ニ依リ毎年十二月三十一日調ヲ以テ鐵道表ヲ製シ翌年三月三十一日限り同省へ送付スヘシ又新ニ鐵道ヲ布設シ若ハ改築シタルトキハ其時時鐵道表ヲ製シ陸軍省へ送付スヘシ

第二十二條

第二十三條

第二十四條 北海道廳長官府縣知事ハ陸軍省ノ定ムル雛形ニ依リ三箇年毎ニ牛馬、車輛及同屬具表及物產收穫表ヲ製シ郡區市長島司ヨリ差出シタル表ト共ニ翌年三月三十一日限り陸軍省へ送付スヘシ

三十一年
十一月
令第三百
三十三號
參看
刪除
同前

第二十五條 北海道廳長官府縣知事ハ海軍省ノ定ムル雛形ニ依リ工場表ヲ製シ毎年三月三十一日限り海軍省へ差出スヘシ

北海道廳長官府縣知事ハ海軍省ノ定ムル雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ毎年三月三十一日限り新ニ造リ若ハ新ニ買入タル船舶アル時ハ其時時海軍省ニ送付スヘシ但シ海軍大臣ハ便宜ニ依リ船舶會社ヲシテ直ニ送付セシムルコトヲ得

第二十六條 徵發令第十二條第二項第六項第七項ニ掲クルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル屬具ヲ併セテ供給スヘキモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十七條 徵發令第十二條第六項ニ掲クル船舶中郵便船ニ限り其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ス又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ス

第二十八條 徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖廚ヲ指シ營業ニ必要ナル場所トハ商估ノ店舗農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸坐敷貸廐ヲ包含ス

第二十九條 宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戶長ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルコト左ノ如シ

- 一 廨署 陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋
 - 二 將官其參謀部ト共ニ 一家屋
 - 三 上長官又ハ同等軍屬一名 一室
 - 四 士官又ハ同等軍屬二名 一室
 - 五 下士又ハ同等軍屬一名 一疊半乃至二疊
 - 六 卒又ハ同等軍屬一名 一疊乃至一疊半
 - 七 徵發ニ應シタル人員三名 二疊
- 第三十條 戶長ハ陸海軍ノ宿割主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ムヘシ
- 第三十一條 徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サスト雖モ若シ該家ニ病者死者等アルトキハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之カ爲メ徵發令第廿二條ニ掲クル日限ヲ更新スルモノニアラス
- 第三十二條 徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食飼ノ定量大率子左ノ如シ

ト雖モ陸海軍給與ノ規則ニ依リ定量以內ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアルヘシ

- 一 人 精米每食二合 朝夕飯一汁一菜漬物 午飯一菜漬物
 - 二 馬 駐軍中 朝大麥二升秣藨五百目喰藨百五十目 晝秣藨五百目喰藨百五十目夕大麥二升秣藨五百目喰藨二百目
 - 演習及ヒ行軍中 朝大麥二升秣藨五百目 晝大麥一升 夕大麥二升秣藨一貫目喰藨五百目
 - 小麥ヲ大麥ニ喰藨ヲ秣藨ニ代用スルトキ 朝小麥一升喰藨一貫目 晝小麥五合 夕小麥一升五合喰藨二貫目
 - 搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰藨ヲ秣藨ニ代用スルトキ 朝搗麥又ハ裸麥一升喰藨一貫目 晝搗麥又ハ裸麥一升 夕搗麥又ハ裸麥二升喰藨一貫目
 - 寢藨ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス
- 第三十三條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ室内所要ノ燈火並ニ其地ノ慣用ニ從ヒ地爐若クハ火鉢薪炭共ニ每室ニ一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス
- 第三十四條 寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セス徵發令第四十八

條ニ從ヒ賠償ス

第三十五條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ 公有家屋社 寺亦同シ 食飼ニ供ス可キ物品又ハ手傳人不足シ供給ヲ爲シ能ハサルノ證アルトキハ戸長ニ於テ賄ノ受負ヲ立ツル歟若クハ物品及ヒ手傳人ヲ其本人ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ准ス可シ

第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スルトキハ戸長ニ於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ准シテ處分ス可シ

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ證明スルトキハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引ヲ立ツ可シ

第三十八條 食飼ノ定賃ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲ニ於テ其時々賠償金額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ

第三十九條 徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但時宜ニ依リ徵發區外ニ設クルコトヲ得

差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス

第四十條 徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トスヘキモノトス但差出場所ヲ徵發區外ノ地ニ設ケタルトキ其區外ニ係ル輸送賃ハ當該官憲ヨリ賠償スヘシ

第四十一條 郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセンカ爲メ豫テ隣郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條 府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領證票ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但徵發令第三十六條及ヒ第三十八條ニ掲クルモノアルトキハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引ヲ立ツ可シ又評價ニ屬スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ記載ス可シ

第四十四條 徵發令第三十一條ニ定ムル三箇月ノ期限ハ受領證票ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リ

タル爲メ又ハ賠償金計算書ノ違算若クハ不合式ニ依リ推問往復ノ爲メニ消費シタル時日ハ算入セス

第四十五條 徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償ス

若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償ス可キモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條 徵發物件ノ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セントキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官憲既ニ出發セントキハ戶長ニ届出可キモノトス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損果シテ使用ヨル生シタルモノト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セサルトキハ評價委員ニ付ス可シ

戶長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ檢査シ其調査書ヲ作り供給者ノ請求金額アルモノハ之其關係ノ陸海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由實況並ニ請求ヲ添フ

金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ

第四十八條 徵發令第三十三條ニ掲タル期日ヲ超エタル届出ハ之ヲ受理ス可カラス但變災厄難ニ罹リタルノ確證アルモノハ其變災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條 徵發令第三十四條ニ從ヒ北海道廳長官府縣知事ハ陸軍省海軍省協議ノ上定ムル雛形ニ依リ其管下市場三箇所以上ノ前三年間ノ平均物價表ヲ調製シ毎年三月三十一日限り陸海軍省ニ差出スヘシ

第五十條 徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シテハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲メ臨時ニ騰貴セサル以前ノ賃價ヲ言フ

徵發令中平常ノ賃價トアルモノハ皆此例ニ依ル

第五十一條 徵發令第三十五條及ヒ第三十八條ニ掲クル平常ノ賃價雇賃借賃ハ郡區長確認ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ

其他徵發令中ニ掲クル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ戶長ヨリ陸海軍官憲ニ申出可シ

第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ賠償金ハ兩省同額タル可シト雖モ本條第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食飼ノ定量ヲ變換若クハ減少スル

ニ於テハ其現量ニ從ヒ賠償ス可シ

第五十三條 徵發令第四十二條中航船實費トハ石炭油脂其他日用消耗品ノ航船中現ニ消耗シタルモノノ代價ニシテ其物品ヲ船舶ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算ス可キモノトス

第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セズ但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルトキ並ニ物件ヲ操業者ト分別シテ徵用シタルトキノ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條 評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名徵發區ニ從ヒ府縣郡區吏員若クハ戸長一名及ヒ其町村評價ヲ爲ノ住民ニシテ其事件ニ熟達シタルモノ若シ熟達シタルモノナキトキハ他町村ノ住民ヲ二名若クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依テ決ス

鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル場所ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス

第五十六條 評價委員ニ採用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニシテ地方吏員若クハ戸長ニ於テ撰擧ス可キモノトス其撰擧セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條 其撰擧セラレタルモノニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給ス可シ

第五十八條 評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戸長ノ派出ヲ要スルトキハ其事件ニ關係ノ陸海軍官憲ヨリ之ヲ府知事縣令郡區長若クハ戸長ニ通達ス可シ

第五十九條 評價ノ方法ハ評價ス可キモノノ種類ニ從ヒ精密ニ調査シ其價額ヲ評定スルヲ要トス左ニ地所損害ニ關スル評價ノ一例ヲ掲ク

演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ届出タルトキハ評價委員ニ於テ實況ヲ查覈シ其請求スル所ノ賠償金額ノ當否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ過當ナリト認ムルトキハ實測スヘシ

評價委員ハ評價畢ルノ後左ニ掲クル要目ニ准シ所有主毎ニ評價明細書ヲ製ス可シ

- 一 評價ノ事項及ヒ事由
- 二 委員ノ氏名
- 三 地面ノ廣袤ハ何ヲ以テ定メタルヤ何圖面何書類ニ依リタ金額ヲ算出ハ如何ナル方法ニ依リタルヤ其季ノ收穫皆無タルニ依リ其植物ノ前何年平均ヲ以テ賠償金ヲ定メタル歟其損害ノ度幾分ニ止マリ其幾

分ニ係ル賠償金額ヲ全部收穫ノ前何年平均額ヨリ算出シタルカ植物生熟ノ度ニ從ヒ其平均收穫量ニ應シ賠償ス可キ金額中ヨリ幾分ノ手間賃及ヒ肥料ヲ扣除シタル歟又永存ノ草木ニシテ毎年收穫アルモノ損害ヲ受ケタルトキハ其損害ノ收實ニ止マルト枝幹ニ係ルモノトニ從ヒ一年若クハ幾年分ノ收穫ヲ見込ミ賠償金額ヲ定メタル歟ノ類

第六十條 評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ交付ス可シ府知事縣令郡區長若クハ戶長ハ其明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作り陸海軍官憲ノ指示スル場所ニ就テ賠償金額ヲ請求ス可シ

附錄第一號ノ一

徵發書

- 一 宿舍 廨署用 將官幾人 上長官幾人
- 士官幾人 下士幾人 兵卒幾人
- 右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徵用
- 一 廐圍 幾匹分
- 右、、、
- 一 倉庫 幾坪
- 右、、、

一 解船

幾艘

右、、、

一 何々

右、、、

前書ノ通徵用候條其町(村)ニ於テ遲滯ナク供給可致候事

年月日

何々長官

姓

名 印

某府(縣)某郡(區)

某町(村)戶長役場宛

備考 徵發書ノ料紙ハ美濃野紙タル可シ

附錄第一號ノ二

徵發書

一人夫

幾人

右内

幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徵用
 幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徵用

一 駄馬
右内 幾匹
幾匹
幾匹
一 何々
右内 何々
一 何々
右内 何々
何々
前書ノ通徵用候條其郡(區)ニ於テ遲滯ナク供給可致事
年月日 何々長 官 姓 名 印
某府(縣) 某郡(區)役所宛

附錄第一號ノ三甲

徵發書
一 汽船 船名
一 西洋形風帆船 船名
右某月某日ヨリ借切徵用候條某港ニ於テ遲滯ナク供給可致事
年月日 何々長 官 姓 名 印
某會社某地店長宛

附錄第一號ノ三乙

徵發書
一 將校並同等官 幾名
一 下士卒並同等 幾名
一 馬 幾匹
一 車 幾輛
一 荷物畧計 幾噸
右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ徵用シ(又ハ其社所有ノ何號船ヲ徵用)

シ某月某日某港出帆(某港ニ運送爲致候條遲滯ナク供給可致事
 年月日 何々長 官 姓 名 印
 某會社某地店長宛

附錄第一號ノ四

徵發書

一上等 幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄
 一中等 幾名内、、、、
 一下等 幾名内、、、、
 一馬 幾匹内幾匹ハ某地迄餘ハ某地迄
 一車 幾輛内幾輛ハ、、、、
 一荷物畧計 幾噸内幾噸ハ、、、、
 右ハ通常(特別)瀛車ヲ徵用シ某月某日時發車ヲ以テ某地へ運送候條遲滯
 ナク供給可致事
 年月日 何々長 官 姓 名 印
 鐵道會社某地停車場長宛

附錄第一號ノ五

徵發書

一玄米 幾百石
 一精米 幾拾石
 一薪 幾貫目
 一何々 、、、、
 一何々 、、、、
 右徵用候條某月某日限リ供給可有之事
 年月日 何々長 官 姓 名 印
 某府(縣)宛

附錄第一號ノ六

徵發書

一某府(縣)某郡(區)某町(村)近傍
 右某月某日演習ノ爲メ徵用候事
 年月日 何々長

某町(村)戸長役場宛

官 姓 名 印

附錄第二號ノ一

受領證票

一 宿舍 廨署用 將官幾人 上長官幾人
士官幾人 下士幾人 兵卒幾人

右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徵用

一 廐圍 幾匹分

右、、、

一 倉庫 幾坪

右、、、

一 舩船 幾艘

右、、、

一 何々 右、、、前書ノ通徵用候也

年 月 日

何々長 官 姓

名 印

某府(縣)某郡(區)
某町(村)戸長役場宛

備考 受領證票ハ總テ存留證票ノ式タルヘシ

附錄第二號ノ二

受領證票

一人夫 幾人

右内

幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徵用
幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徵用

一 駄馬 幾匹 馬士共

右内

幾匹、、、

幾匹、、、

一 何々

右内

何、、、、
 一何々
 右内
 何、、、、
 前書ノ通徴用候也
 年月日
 何々長
 官姓
 名印
 某府(縣)
 某郡(區)役所宛

附錄第二號ノ三甲

受領證票
 一 汽船
 一 西洋形風帆船
 右ハ某月某日ヨリ某月某日迄借切徴用
 前書之通徴用候也
 年月日
 何々長
 官姓
 名印
 某會社某地店長宛

附錄第二號ノ三乙

受領證票
 一 將校並同等官
 一 下士卒並同等
 一 馬
 一 車
 一 荷物畧計
 右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ某月某日某港迄徴用
 前書ノ通徴用候也
 年月日
 何々長
 官姓
 名印
 某會社某地店長宛

附錄第二號ノ四

受領證票
 一 上等
 一 中等
 幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄
 幾名内、、、

附錄第二號ノ五

鐵道會社某地停車場長宛

受領證票

一 下等
 一 馬
 一 車
 一 荷物畧計
 右ハ某月某日時通常(特別)汽車徵用
 前書之通徵用候也

年 月 日

幾名内、
 幾匹内幾匹ハ某地迄餘ハ某地迄
 幾輛内幾輛ハ、
 幾噸内幾噸ハ、

何々長 官 姓 名 印

附錄第六號

賠償金計算書

一 宿泊代 第何號證票 何拾何圓
 一 鹿圍代 同上 何拾圓
 一 駄馬何匹 同上 何圓
 一 人夫何人 第何號證票ノ内 何圓
 一 六里外人夫何人 同上 何圓
 一 荷積大七車何輛 第何號證票 三日 何圓
 一 同大八車何輛 同上 何圓
 一 同中車何輛同小車何輛 第何號證票ノ内 何圓
 右七廉合計金何百何拾何圓賠償金トシテ御渡相成度候也 評 價

年 月 日

府知事(縣令)郡區長(戶長)
 停車場長(船舶會社店長)
 何地何會計官
 御 中

何々長 官 姓 名 印



欠

MISSING

製造シ得キ	製造シ	最大	最大	所製	職工	造船	端舟	船具	填隙	製帆
				圖造	機船	機船	工	工	工	工
				何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人
第一第				模型	鑄造	鑄盤	組立	鍊鐵	整飾	製管
				職工	職工	職工	職工	職工	職工	職工
第二第				何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人
第三第										

船	水上	水中	部	長	水面ヨリ	傾	臺	竣	起	永	水	船					
												得	製造	最	大		
船	最	大	小	門	門	門	門	年	年	年	無	度	潮	潮	潮	潮	潮
船	最	大	小	門	門	門	門	年	年	年	無	度	潮	潮	潮	潮	潮
船	最	大	小	門	門	門	門	年	年	年	無	度	潮	潮	潮	潮	潮

筒	種	一時間ニ排出シ得キ平均水量	船				臺				竣	起	永	水				
			入	得	キ	船	傾	臺	竣	起					永	水		
渠口	高	距	水	水	長	第一	第二	第三	第一	第二	第三	第一	第二	第三	第一	第二	第三	
底	サ	小	小	大	第一	第二	第三	第一	第二	第三	第一	第二	第三	第一	第二	第三	第一	
ヨリ	高深	口頭	最	最	最	幅	第一	第二	第三	第一	第二	第三	第一	第二	第三	第一	第二	第三
高深	部	部	離	潮	潮	潮	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間

浮	最	最	臺						渠																																										
			起	工	年	月	日	最	大	最	大	最	大	起	工	年	月	日	渠	底	ノ	傾	度	戸	當	リ	ノ	最	小	滿	潮	入	船	ナ	キ	ト	キ	ノ	排	最	大	壩	望	滿	潮	罐	數	汽	種	馬	力
最	大	大	起	工	年	月	日	最	大	最	大	起	工	年	月	日	渠	底	ノ	傾	度	戸	當	リ	ノ	最	小	滿	潮	入	船	ナ	キ	ト	キ	ノ	排	最	大	壩	望	滿	潮	罐	數	汽	種	馬	力		

面積	スクライヴボード	錫	鉋	機	鍛	細	原	造																																				
								起	工	年	月	日	大	一	滿	馬	數	種	最	大	最	大	最	大	最	大	造	長	幅	建	坪	機	械	ノ	數	造	長	幅	建	坪	機	械	ノ	數
最大	旋盤	工	場	鑄	造	工	場	組	立	工	場	製	罐	工	場	同	鍊	鐵	工	場	模	型	工	場	最大	旋盤	ノ	要	領															

「ベンチングスラッ ブ」面積	最大曲板機ノ要領	最大平削機ノ要領
再熱爐ノ數及最大爐 内部ノ容積	水力「リベッター」ノ 要領	最大「シリンドーボア リング」機械ノ要領
最大「バンチング、シ ヤリング」機械ノ要 領	工場外「クレーン」並 ニ「シャレツグ」ノ起 重力(噸數)	
「プレートエツヂ、プ レーニング」機械ノ 要領	材料試驗機ノ要領	
「プレートストレー トニング」機械ノ要 領	材料試驗機備付ナキ ニ於テハ何處ニ於テ 試験スルヤ	
右ノ外重要ナル諸機 械	右ノ外重要ナル諸機 械	
明治二十五年以 來製造シタル船 舶並ニ機關其他 施行シタル重要 ナル工事ノ要領		
右ノ外猶製造力 及工業ノ程度ヲ 示スヘキ要領		

工場表ノ二

鑄造工場表

(一回ノ熔鐵量二百「キログラム」以
下ノ工場ハ本表ニ掲クルヲ要セス)

道廳府縣 明治 何年
十二月三十一日調

名 稱	所在地	持 主	會社ノ種類	創 立 年 月	工場 建 坪 數	熔 鐵 爐 種 類	送 風 機 種 類	起重器其他重要機 械器具ノ要領	常時専ラ製造スル 品 種	職 工 數	右ノ外製造力及工 業程度ヲ示スヘキ 要領
						(爐數ノ多少ニ拘ラス一回ニ溶解シ得ル最大重量ヲ掲クヘシ)				(場内最大事業ニ使用スル一日ノ總數ヲ掲クヘシ)	

徵發事務條例

千四〇

喫水	空	造船獎勵金ノ有無
	載	航海獎勵金ノ有無
推進機	種類	検査年月日
	數	検査證有効期限
實馬力	力	航路定限
全速力	力	定期航海線路
	力	定 繫 港
石炭貯量	(何噸)	用 方
	(何噸)	
一晝夜消費量	石炭 (何噸)	船長及運轉士定員
	油 (何キログラム)	
蒸溜水機械	數	機關部定員
	一晝夜蒸溜量 (何噸)	
眞水ヲ貯藏シ得ル最大高	(何噸)	甲板部定員
	(何噸)	
起重機又ハ起重桁	數	自餘乗組定員
	最大起重重量(何噸)	
船客	上	定 員
	中	
	下	

●陸軍省訓令甲第十五號 (明治二十三年九月十九日)

徵發事務條例中徵發物件取調送附方

道廳 府縣

今般勅令第九十六號ヲ以テ徵發事務條例第二十四條改正ニ依リ三年毎ニ徵發物件表ヲ製シ翌年三月三十一日限リ陸軍省ニ送附スルハ本年十二月調ヲ以テ第一回トシ二十五年十二月調ヲ以テ第二回トス自後之ニ準スル儀ト心得ヘシ

但條例第二十一條ニ依リ郡區長ニ於テ製表ノ儀モ毎年調製ヲ要セス本文同様ノ儀ト心得ヘシ

徵發事務條例中徵發物件取調送附方

ナ一終

●法律第六十六號 (明治二十九年四月六日)

第一條 戰時若ハ事變ノ際軍馬ノ補給ヲ確實ナラシムル爲馬匹ノ調査及検査ヲ行フ
第二條 馬匹ノ調査ハ島司、郡市町村長之ヲ行ヒ其ノ検査ハ陸軍官憲之ヲ行フ但シ
検査ハ一年一回ヲ超ユルコトナシ

第三條 馬匹ノ所有者ハ馬匹ノ調査ニ必要ナル事項ヲ届出ヘシ

第四條 馬匹ノ所有者ハ指定ノ検査場ニ於テ馬匹ノ検査ヲ受クヘシ
馬匹ノ検査ヲ受ケタル馬匹所有者ニハ手當及旅費ヲ給ス

第五條 徵發令ニ依リ徵發ノ免除ヲ受クヘキ馬匹ニハ此法律ヲ適用セス

第六條 馬匹ノ調査及検査ヲ行フヘキ區域、時期、馬匹ノ種類、第三條ノ届出事項及
第四條ノ手當、旅費ノ金額ニ關スル規程並此法律施行ノ爲必要ナル規程ハ陸軍大
臣之ヲ定ム

附 則

第七條 東京市、京都市、大阪市ニ於テハ此ノ法律ニ規程シタル市長ノ職務ハ區長之
ヲ行フ

市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル市町村長ノ職務ハ

區長、戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ
第八條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

●陸軍省令第四號 (明治三十年二月二十四日)

馬匹調査及検査施行規則

第一條 馬匹ノ所有者ハ毎年十一月一日北海道ニ在テハ九月一日北海道ニ在テ調ヲ以テ馬匹ノ現在届書(第一號書式若ハ第二號書式)ヲ同日ヨリ十日北海道ニ在テハ二十日以下同シニ現住地ノ市町村長ニ差出スヘシ

第二條 馬匹ノ所有者ハ其ノ馬匹ニ出讓渡シ、死亡シ、撲殺シ、屠殺シ、失踪シ若ハ飼養所ヲ現住ノ市町村外ヘ轉シ又ハ徵發免除ノ資格ヲ得タル入讓受ケ、出生シ、踪跡ヲ發見シ若ハ飼養所ヲ現住ノ市町アルトキハトキヲ謂フ 村内ニ轉シ又ハ徵發免除ノ資格ヲ失ヒタルトキヲ謂フアルトキハ其ノ都度十日北海道ニ在テハ二十日以下同シ以內ニ該馬匹ノ届書(第二號書式)若ハ入届書(第四號書式)ヲ現住地ノ市町村長ニ差出スヘシ但馬匹ヲ引連レ住所ヲ他ノ市町村ニ轉シタルトキハ舊住地ノ市町村長ニハ該馬匹ノ出届ヲナシ新住地ノ市町村長ニハ該馬匹ノ入届ヲナスモノトス

第三條 市町村長馬匹ノ現在届書ヲ受領シタルトキハ其ノ普通ノ所有者ニ屬スル分

三十二年
十月省令
第三十號
參看

ト營業所有者馬匹ノ賣買ヲ營業ニ屬スル分トニ分類シ且左ノ部別ニ依リ綴リ置クヘシ

牡五歳以上乗馬向ノ部

同 輓馬向ノ部

同 駄馬向ノ部

牡四歳以下乗馬向ノ部

同 輓馬向ノ部

同 駄馬向ノ部

同 用役未定ノ部

牝五歳以上乗馬向ノ部

同 輓馬向ノ部

同 駄馬向ノ部

牝四歳以下乗馬向ノ部

同 輓馬向ノ部

同 駄馬向ノ部

同 用役未定ノ部

市町村長馬匹ノ出入届書ヲ受領シタルトキハ其ノ出ニ屬スル分ト入ニ屬スル分トニ區分ヲ立テ且前項ノ分類及部別ニ依リ綴リ置クヘシ

第四條 町村長ハ馬匹ノ現在届書ニ依リ馬匹調査表(第五號書式)ヲ調製シ毎年十一月二十五日北海道ニ在テハ迄到達ノ期ヲ指ニ郡長ニ差出スヘシ

郡長ハ町村長ヨリ差出シタル馬匹調査表ニ依リ其ノ郡内一般ニ渉ル馬匹調査表(第五號書式)ニ通テ調製シ毎年十二月十日北海道ニ在テハ十二月十日迄ニ徵馬管區馬匹徵發事務細則附表ヲ謂フ以內ノ師團長ニ差出スヘシ

第五條 市長ハ馬匹ノ現在届書ニ依リ馬匹調査表(第五號書式)ニ通テ調製シ毎年十二月十日迄ニ徵馬管區内ノ師團長ニ届出ヘシ

第六條 師團長第四條第二項及第五條ノ馬匹調査表ヲ受領シタルトキハ其ノ一通ヲ

軍馬補充部本部長ニ送付スヘシ

第七條 町村長ハ馬匹ノ出入届書ニ依リ毎年三月一日及七月一日 北海道ニ在テハ一月一日及五月一日 北海道ニ在テハ當月盡日迄ニ郡長ニ差出スヘシ

郡長ハ町村長ヨリ差出シタル馬匹出入表ニ依リ其ノ郡内一般ニ涉ル馬匹出入表 (第六號書式)ヲ調製シ翌月一日 北海道ニ在テハ翌月二十日迄ニ徵馬管区内ノ師團長ニ差出スヘシ

第八條 市長ハ馬匹ノ出入届書ニ依リ毎年三月一日及七月一日 北海道ニ在テハ一月一日及五月一日 北海道ニ在テハ翌月二十日迄ニ徵馬管区内ノ師團長ニ差出スヘシ

第九條 市町村長馬匹出入表ノ調製ヲ了ルトキハ其ノ都度第三條第一項ノ届書綴及第二項ノ入届書綴中ヨリ其ノ出ニ属シタル馬匹ノ届書ヲ訂正若ハ除去シ尚ホ入届書ニ殘餘アルトキハ第一項ノ届書綴ニ編入スヘシ

第十條 馬匹検査ハ師團長委員ヲ設ケテ其ノ徵馬管区内ニ之レヲ行フ

第十一條 馬匹検査場ハ検査ヲ受クヘキ馬匹ノ所在地ヨリ該検査場へ一日間ニ往復シ得ル區域毎ニ一箇所トシ郡市長ノ下調ニ依リ師團長之レヲ定ム但一所ニ多數ノ馬匹ヲ置ク者アルトキハ別ニ其ノ馬匹ノ所在地ヲ以テ検査場ニ充ツルコトヲ得

第十二條 師團長馬匹ノ検査ヲ行ハントスルトキハ豫メ其ノ時期馬匹ノ區別一日間ノ検査馬數其ノ他必要ノ事項ヲ郡市長ニ達スヘシ

第十三條 郡市長第十二條ノ達ヲ受ケタルトキハ馬匹調査表若クハ最近馬匹出入表ニ依リ馬匹下調表(第七號書式)ヲ調製シ師團長ニ差出スヘシ

第十四條 師團長ハ馬匹検査ノ計畫既ニ成ルトキハ馬匹検査場ノ位置検査ヲ行フヘキ馬匹ノ區別馬匹ヲ検査ニ出場セシムヘキ市町村ノ日割日々検査ヲ行フヘキ馬匹ノ概數其ノ他必要ノ事項ヲ郡市長ニ達スヘシ

第十五條 郡長第十四條ノ達ヲ受ケタルトキハ馬匹検査場ノ位置検査ヲ受クヘキ馬匹ノ區別馬匹ヲ検査ニ出場セシムヘキ町村ノ日割日々検査ヲ受クヘキ馬匹ノ概數

其ノ他必要ノ事項ヲ町村長ニ達スヘシ

町村長前項ノ達ヲ受ケタルトキハ検査ヲ受クヘキ馬匹ノ所有者若ハ總代人又ハ管理人ヲ調ヘ其ノ馬匹ヲ検査ニ出場セシムヘキ日割ヲ定メ馬匹検査場ノ位置其ノ他必要ノ事項ト共ニ該所有者若ハ總代人又ハ管理人ニ通知スヘシ
町村長前項ノ通知ヲ爲シタル後新ニ検査ヲ受クヘキ馬匹ノ所有者若ハ總代人又ハ管理人トナリタル者アルトキハ其ノ都度同様ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條 市長第十四條ノ達ヲ受ケタルトキハ第十五條第二項第三項ト同様ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 市長ハ第十四條町村長ハ第十五條第一項ノ達ヲ受ケタル當日調ヲ以テ出場馬匹名簿(第八號書式)ヲ調製シ爾後馬匹検査當日迄ノ間ニ於テ検査ヲ受クヘキ馬匹ニ出入アルトキハ其ノ都度該名簿ヲ訂正シ馬匹検査ノ際馬匹検査委員ニ差出スヘシ

第十八條 馬匹ノ所有者第十五條第二項第三項若ハ第十六條ノ通知ヲ受ケタルトキ

ハ該通知ニ應シ其ノ馬匹ヲ検査ニ出場セシムヘシ

第十九條 馬匹ノ所有者ハ馬匹ノ疾病傷痕分娩其ノ他正當ノ理由ニ依テ検査ニ出場セシムルコト能ハサルトキハ獸醫ノ診斷書若ハ戸主二名ノ證明書ヲ添ヘテ其ノ旨ヲ現住地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第二十條 馬匹検査委員ハ出場馬匹名簿ニ依リ検査ヲ行フヘシ

第二十一條 郡市町村吏員北海道ニ在テハ郡吏員ヲ除クハ馬匹ノ検査ニ立會フヘシ

第二十二條 馬匹ノ調査及検査ニ關スル法律第四條ノ手當及旅費ハ左ノ支給方ニ依ル

- 一 手當ハ馬匹一頭ニ付拾錢ヲ給ス
- 一 旅費ハ馬匹一頭ニ付一里毎ニ貳錢五厘ヲ給ス但往復里程ハ通算シ一里未滿ノ端數ハ給セス

第二十三條 馬匹ノ所有者其ノ馬匹ヲ現住市町村外ニ置クトキハ該馬匹所在ノ市町村毎ニ該市町村内ノ現住者中ヨリ該馬匹ノ管理人ヲ設クヘシ但馬匹所在地ニシテ

二箇以上ノ市町村ニ跨ルトキハ該馬匹ノ管理人ハ該市町村内ノ現住者一人トシ又馬匹所在地ニシテ該馬匹ノ所有者現住ノ市町村ト他ノ市町村トニ跨ルトキ若ハ本規則未行地ナルトキハ管理人ヲ設クルヲ要セス

馬匹ノ所有者ハ其ノ馬匹ノ管理人ヲ設ケ若ハ變更シ又ハ廢止シタルトキハ其ノ都度十日 北海道ニ在 以内ニ該管理人ノ住所氏名ヲ記シ其ノ旨ヲ該管理人現住地ノ市町村長ニ届出ヘシ

馬匹ノ管理人ハ其ノ管理スル馬匹ニ就テハ該馬匹ノ所有者ニ代リ第一條第二條第十八條第十九條ノ事項ヲ辨スヘシ

第二十四條 馬匹ノ共有者ハ該共有者中ヨリ一人ノ總代人ヲ設ケ總代人ノ住所氏名ヲ記シ一同連署ノ上十日 北海道ニ在 以内ニ該總代人現住地ノ市町村長ニ届出ヘシ其ノ總代人ヲ變更シタルトキ亦同シ

前項ノ總代人ハ前項ノ各共有者ニ代リ第一條第二條第十八條第十九條第二十三條第一項第二項ノ事項ヲ辨スヘシ

第二十五條 馬匹ノ所有者第一條第二條第二十三條第二項第二十四條第一項ノ届出ヲ怠リタルトキ第二十四條第一項ノ總代人ヲ設ケサルトキ第十八條第二十三條第一項ニ違犯シタルトキ第十九條ノ届出ヲ怠リ若ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタルトキハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス前項ノ罰則ハ馬匹管理人又ハ總代人ニ於テ處辨スヘキ事項ニ在テハ其ノ管理人又ハ總代人ニ適用スルモノトス

附 則

第二十六條 本規則中市トアルハ東京市京都市大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區ニ該當ス

第二十七條 本規則中市長ノ職務ハ東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區長之ヲ行ヒ郡長ノ職務ハ北海道ノ郡ニ在テハ支廳長、對馬ニ在テハ島司之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戸長及之レニ準スヘキモノ之ヲ行フ

第二十八條 臺灣沖繩縣北海道所屬ノ島嶼其ノ他町村制ヲ施行セサル島嶼(對馬ヲ除ク)ニハ當分本規則ヲ施行セス但該地方ノ現住者中其ノ所有ノ馬匹ヲ本規則施行地ニ置ク者其ノ馬匹ニ關シテハ此ノ限ニアラス

第二十九條 削除

第三十條 明治三十年ニ限リ北海道外ノ郡市町村長ハ第四條及第五條ノ手續ヲ二回施行スヘシ但第一回ノ馬匹調査表ハ市町村長ニ在テハ第二十九條ノ現在屆書ニ依テ調製シ其ノ差出期限ハ町村長ニ在テハ四月二十五日迄郡市長ニ在テハ五月二十日迄トス

第三十一條 明治三十年ニ限リ北海道外ノ郡市町村長ハ第七條第八條及第九條ノ手續ハ九月ヨリ行フヘシ

第三十二條 明治三十年ニ限リ北海道現住ノ馬匹所有者中其ノ馬匹ヲ同道内ニ置ク者ハ同年八月盡日迄ハ第二條第二十三條第二十四條及第二十九條ノ手續ヲ行フニ及ハス

第三十三條 削除

第一號書式 (用紙半紙)

馬匹現在屆

- 一性
 - 一年齡
 - 一用役
 - 一體尺
 - 一毛色
- 右現在候也

現住所

年月日

馬匹所有者(總代人)(馬匹管理人) 氏

名 ①

市町村長宛

注意

- 一 此ノ届書ハ馬匹一頭毎ニ調製スルモノトス但多數ノ馬匹ヲ所有者ハ管理スル者ノ届書ハ第二號書式ニ據ルコトヲ得
- 二 性ノ處ニハ「牝」又ハ「牡」ト記載スヘシ
- 三 用役ノ處ニハ乘馬ニ適スヘキカ輓馬ニ適スヘキカ又ハ駄馬ニ適スヘキカ其ノ見込ヲ定メテ「乘馬向」「輓馬向」又ハ「駄馬向」ト記載スヘシ但四歳以下ノ馬匹中其ノ見込ヲ定メ難キ幼齡ノモノニ限リ「用役未定」ト記載スヘシ
- 四 體尺ハ肩ノ最モ高キ處ヨリ地面へ垂直ニ測リタルモノヲ記載スヘシ
- 五 馬匹ノ所有者ニシテ馬匹ノ賣買ヲ營業トスルモノ、届書ニハ氏名ノ上ヲ「營業所有者」若ハ「營業所有者總代人」又ハ「營業所有者ノ馬匹管理人」ト記載スヘシ

第二號書式 (用紙半紙罫紙)

馬匹現在届

一性	一五歳以上(四歳以下)	一用役	右何頭現在候也	年	内譯	齡	體	尺	毛	色
				年月日	現住所					
				馬匹所有者(總代人)(馬匹管理人)氏	名					
				市町村長宛						

注意

- 一 性、用役、體尺ノ記載方ハ第一號書式ニ同シ
- 二 多數ノ馬匹ヲ所有者ハ管理スル者ノ届書ハ此書式ニ據ルコトヲ得但牝馬ノ分ト牝馬ノ分トニ別テ五歳以上ノモノニ在テハ「乘馬向」「輓馬向」「駄馬向」毎ニ各一通宛、四歳以下ノモノニ在テハ「乘馬向」「輓馬向」「駄馬向」「用役未

定「毎ニ各一通宛調製スルモノトス
 三 馬匹ノ所有者ニシテ馬匹ノ賣買ヲ營業トスル者ノ届書ニハ氏名ノ上ヲ「營業所有者」若ハ「營業所有者ノ總代人」又ハ「營業所有者ノ馬匹管理人」ト記載スヘシ

第三號書式 (用紙半紙)

馬匹出届

一性
 一年齡
 一用役
 一體尺
 一毛色
 右何市町村何誰へ讓渡(死亡)(撲殺)(屠殺)(失踪)(飼養所ヲ何市町村へ轉シ)(徵發免除ノ資格ヲ得)候也

現住所

年月日 馬匹所有者(總代人)(馬匹管理人) 氏 名 印
 市町村長宛

注意

- 一 此ノ届書ハ馬匹一頭毎ニ調製スルモノトス
- 二 性ノ處ニハ「牝」又ハ「牡」ト記載スヘシ
- 三 年齡、用役及體尺ハ前回差出シタル現在届若ハ入届ニ記載シタルモノヲ記載スヘシ
- 四 馬匹ノ所有者ニシテ馬匹ノ賣買ヲ營業トスルモノ、届書ニハ氏名ノ上ヲ「營業所有者」若ハ「營業所有者總代人」又ハ「營業所有者ノ馬匹管理人」ト記載スヘシ

第四號書式 (用紙半紙)

馬匹入届

- 一性
- 一年齡
- 一用役
- 一體尺
- 一毛色

右何市町村何誰ヨリ譲受(出生)(跡跡發見)(飼養所ヲ現住市町村へ轉シ)(徵發免除ノ資格ヲ失ヒ)候也

現住所

年月日 馬匹所有者(總代人)(馬匹管理人) 氏 名 印
市町村長宛

注意

- 一 此ノ届書ハ馬匹一頭毎ニ調製スルモノトス
- 二 性ノ處ニハ「牝」又ハ「牡」ト記載スヘシ

三 用役ノ處ニハ乘馬ニ適スヘキカ輓馬ニ適スヘキカ又ハ駄馬ニ適スヘキカ其ノ見込ヲ定メテ「乘馬向」「輓馬向」又ハ「駄馬向」ト記載スヘシ但四歳以下ノ馬匹中其ノ見込ヲ定メ難キ幼齡ノモノニ限リ「用役未定」ト記載スヘシ

四 體尺ハ肩ノ最モ高キ處ヨリ地面へ垂直ニ測リタルモノヲ記載スヘシ

五 馬匹ノ所有者ニシテ馬匹ノ賣買ヲ營業トスルモノ、届書ニハ氏名ノ上ヲ「營業所有者」若ハ「營業所有者總代人」又ハ「營業所有者ノ馬匹管理人」ト記載スヘシ

第五號書式 (用紙美濃紙)

年	月	馬匹調査表	五歳以上ノ部(四歳以下ノ部)	北海道府縣(郡)	郡市町村長	氏	名
體區		計		計		計	
尺	分	乘馬向	輓馬向	駄馬向	計	乘馬向	輓馬向
三	尺八寸以下						
三	尺九寸						
四	尺						

考備	計	四								
		九寸以上	八寸	七寸	六寸	五寸	四寸	三寸	二寸	一寸
<p>注意</p> <p>一 此ノ表ハ各郡市町村毎ニ調製スルモノトス</p> <p>二 體尺ヲ記入スルニ方リ寸未滿ハ四捨五入スヘシ</p> <p>三 四歳以下ノ部ヲ調製スルトキハ「駄馬向」ノ下ニ「用役未定」ノ區畫ヲ増設スヘシ</p> <p>四 營業所有者ノ馬匹ハ各區畫内へ朱ニテ左側ニ記入スヘシ</p>										

第六號書式 (用紙美濃紙)

月一日 年 調 馬匹出入表

五歳以上ノ部(四歳以下ノ部)

北海道府縣(郡) 郡市町村長 氏

名

考備	計	四									三		二		一	
		九寸以上	八寸	七寸	六寸	五寸	四寸	三寸	二寸	一寸	四尺	三尺九寸	三尺八寸以下	分	尺	
<p>體區</p> <p>乘馬向 駄馬向 乘馬向 駄馬向</p> <p>既入計出 既入計出 既入計出 既入計出 既入計出 既入計出 既入計出 既入計出 既入計出 既入計出 既入計出 既入計出 既入計出 既入計出 既入計出 既入計出</p>																

注意

- 一 此ノ表ハ各郡市町村毎ニ調製スルモノトス
- 二 體尺ヲ記入スルニ方リ寸未滿ハ四捨五入スヘシ
- 三 既往ノ區畫ニハ三月一日 北海道ニ在テ 北海道ニ在テ 調ニ在テハ馬匹調査表ノ馬數ヲ記入シ七月一日以後 北海道ニ在テ 調ニ在テハ前回ノ馬匹出入表中ノ現在馬數ヲ記入スヘシ
- 四 入ノ區畫ニハ既往四箇月間ニ入届アリタル馬數出ノ區畫ニハ既往四箇月間ニ出届アリタル馬數ヲ記入スヘシ
- 五 現在ノ區畫ニハ既往ト入トノ合計ヨリ出ノ馬數ヲ減シタル殘數ヲ記入スヘシ
- 六 四歳以下ノ部ヲ調製スルトキハ「駄馬向」ノ下ニ「用役未定」ノ區畫ヲ増設スヘシ
- 七 營業所有者ノ馬匹ハ各區畫内ヘ朱ニテ左側ニ記入スヘシ

第七號書式 (用紙美濃紙)

月 日 調 年		馬匹検査下調表		北海道府縣 郡市長 氏 名	
検査場日次	検査場ノ距離	検査ヲ受クヘキ馬數	検査ヲ受クヘキ總馬數	検査場間ノ距離	
甲 第一日				乙村へ何里何町	
甲 第二日				丙町へ何里何町	
乙 第一日				丁村へ何里何町	
乙 第二日					
丙 第一日				丙町へ何里何町	
丙 第二日				丁村へ何里何町	

考備	町	丁	村
	日何第	日何第	日何第
<p>注意</p> <p>一 此ノ表ハ各郡市毎ニ調製スルモノトス</p> <p>二 營業所有者ノ馬匹ノ數ハ相當區畫内へ朱ニテ左側ニ記入スヘシ</p> <p>第八號書式 (用紙半紙)</p>			

注意

一 此ノ表ハ各郡市毎ニ調製スルモノトス

二 營業所有者ノ馬匹ノ數ハ相當區畫内へ朱ニテ左側ニ記入スヘシ

第八號書式 (用紙半紙)

月 日 年 出場馬匹名簿

北海道府縣 郡市町村長 氏 名

牡(牝)馬五歳以上(四歳以下)ノ部

普通所有者ノ馬匹

營業所有者ノ馬匹

何頭

計

何頭

何頭

年齢	體尺	毛色	用役	馬匹所有者
				總代理人
				管理人
				氏 名

注意

- 一 此ノ名簿ハ各市町村ニ區別シ牡馬五歳以上ノ部、牝馬五歳以上ノ部、牡馬四歳以下ノ部、牝馬四歳以下ノ部ノ各部毎ニ一通宛調製スルモノトス
- 二 營業所有者ノ分ハ朱ニテ記入スヘシ

●陸軍省令第三十一號 (明治三十二年十月二十六日)

馬匹徵發事務細則

第一章 總則

第一條 本則ハ動員ノ爲メ師團ニ於テ行フ馬匹徵發ニ關スル準備及實施ノ事務ヲ規定スルモノトス

第二條 馬匹ノ徵發ハ附表ニ示ス徵馬管區ニ從テ之ヲ行フ

第三條 徵馬管區内ノ地方官衙、公署ニ於ケル馬匹徵發ニ關スル準備及實施ノ事務ハ本則ニ依ルノ外尙ホ當該管區ヲ管轄スル師團長ノ規定スル所ニ從フヘシ

第四條 師團長ハ徵發馬匹差出場所ニ於テ馬匹ノ檢査ヲ爲シ且該所ニ於ケル徵發及輸送ノ事務ヲ掌ラシムル爲メ馬匹徵發委員ヲ設ケ又徵發馬匹輸送途中ニ於ケル宿泊及給養ノ事務ヲ掌ラシムル爲メ馬匹給養委員ヲ設クルモノトス

第五條 徵發馬匹ヲ其差出場所ヨリ到着地ニ輸送スル爲メニハ馬匹ノ操業者ヲ徵用スルモノトス

第六條 馬匹徵發ノ實施ニ關シ官衙、公署間送ニ發送スル文書ノ封筒ハ動員用封筒（第一様式）ヲ用キ之ヲ受領シタル者ハ其封筒ニ受領時刻ヲ記入シ受領證區畫ニ捺印ノ上之ヲ返附スヘシ其本人ニ代テ受領シタル者ハ受領證區畫ニ氏名ヲ記シ捺印スヘシ

第七條 本則中到着地トアルハ徵發馬匹ヲ受領スル部隊ノ所在地ヲ謂フ

第八條 本則中地方長官トアルハ東京府ニ在テハ警視總監ヲ、警察署長トアルハ警察分署長ヲ、村長トアルハ戸長及之ニ準スヘキ者ヲ包含シ又市長トアルハ東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區長ニ、郡長トアルハ北海道ノ郡ニ在テハ支廳長ニ、對馬ニ在テハ島司ニ該當ス

市トアルハ東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區ニ該當ス

第二章 徵發準備

第九條 師團長ハ定期若クハ臨時ニ地方官衙、公署ニ於ケル馬匹徵發準備ノ整否ヲ閱視シ又ハ部下將校ヲシテ之ヲ閱視セシム

第十條 地方長官ハ師團長ヨリ徵發馬匹差出場所及同宿泊所表ヲ受クレハ直ニ之ヲ差出場所若クハ宿泊所ヲ設置スヘキ地ヲ管轄スル郡市長ニ在テハ市長ヲ經テ警察署長ニ達スヘシ

第十一條 地方長官ハ徵發馬匹差出場所及同宿泊所ノ設備ニ關シ師團長ヨリ要求アルトキハ其準備ヲナスヘシ

第十二條 憲兵隊長ハ師團長ヨリ徵發馬匹差出場所及同宿泊所表ヲ受クレハ直ニ警察署長ト協議ノ上該所ニ於ケル取締ニ關シ必要ノ準備ヲナスヘシ

第十三條 警察署長ハ地方長官ヨリ第十條ノ達ヲ受クレハ憲兵隊長ト協議ノ上其取締ニ關シ必要ノ準備ヲナスヘシ

第十四條 郡長ハ師團長ヨリ徵發馬匹配當及差出日割表ヲ受クレハ直ニ馬匹調査及檢査施行規則第四條ニ規定スル馬匹調査表ニ依リ徵發スヘキ馬匹ヲ町村ニ配當シ爾後要スレハ同規則第七條ニ規定シタル馬匹出入表ニ依リ之ヲ變更ス 何時ニテモ迅速確實ニ師團長ノ指定スル期日ニ於テ其指定ノ馬數ヲ差出シ得ヘキ準備ヲナスヘシ

第十五條 市長ハ師團長ヨリ徵發馬匹配當及差出日割表ヲ受クレハ直ニ馬匹調査及
檢査施行規則第三條ニ規定スル馬匹現在届書又ハ馬匹出入届書ニ依リ差出スヘキ
馬匹ヲ豫定シ何時ニテモ迅速確實ニ師團長ノ指定スル期日ニ於テ其指定ノ馬數ヲ
差出シ得ヘキ準備ヲナスヘシ

第十六條 郡市長ハ師團長ヨリ馬匹徵發書ヲ受クレハ確實ニ之ヲ保管スヘシ但此徵
發書ハ師團動員發令ノ時ヨリ初メテ其効力ヲ有スルモノトス

第十七條 郡市長ハ馬匹ノ異動ニ依リ師團長ヨリ指定ノ馬數ヲ差出ス能ハサルコト
ヲ豫知シタルトキハ速ニ其旨ヲ師團長ニ申告シ其指示ヲ請クヘシ

第十八條 郡市長ハ師團長ノ要求ニ依リ徵發馬匹差出場所及同宿泊所ノ設備ニ要ス
ル費用ノ豫算其他馬匹徵發ニ關スル準備ノ爲メ所要ノ調査ヲナスヘシ

第十九條 馬匹徵發ニ關シ郡役所ニ於テハ町村徵發馬匹配當書類町村徵發馬匹差出
場所到着日割書類及動員用封筒ヲ、市役所及町村役場ニ於テハ動員用封筒ヲ準備
シ置クヘシ

第三章 徵發實施

第二十條 馬匹ノ徵發ハ當該師團動員發令ノ時ヨリ實施スヘキモノトス

馬匹ノミ徵發スル郡市若クハ徵發馬匹差出場所又ハ同宿泊所ノミ設置スヘキ郡市
ニ在テハ徵馬管區ヲ管轄スル師團長ヨリ動員令ヲ當該地方長官及郡市長ニ通達ス
ヘシ

第二十一條 地方長官ハ師團長ヨリ動員令ノ通達ヲ受クレハ直ニ之ヲ警察署長ニ達
スヘシ

第二十二條 憲兵隊長ハ師團ヨリ動員令ノ通達ヲ受クレハ直ニ之ヲ部下ニ達シ豫定
ノ計畫ニ從ヒ憲兵ヲ徵發馬匹差出場所及同宿泊所ニ派遣シ馬匹徵發委員及馬匹給
養委員並ニ當該市、町、村長ト協議ノ上其取締ニ關シ相當ノ處置ヲナサシムヘシ

第二十三條 警察署長ハ地方長官ヨリ動員令ノ通達ヲ受クレハ直ニ之ヲ部下ニ達シ
豫定ノ計畫ニ從ヒ警察官吏ヲ徵發馬匹差出場所及同宿泊所ニ派遣シ馬匹徵發委員
及馬匹給養委員並ニ當該市、町、村長ト協議ノ上其取締ニ關シ相當ノ處置ヲナサシ

ムヘシ

第二十四條 郡市長ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官第二十條第二項ニ當ル郡市ニ在テハ師團長ヨリ動

員令ノ通達ヲ受クレハ其達書ニ指示スル動員ノ區分ト豫テ保管スル馬匹徵發書ニ

記スル所ノ馬匹ノ員數此員數若シ徵發馬匹配當及差出日割表ニ記セルトニ基キ郡員數ト差違アルトキハ徵發書ニ示ス所ニ依ル

長ニ在テハ直ニ馬匹ノ配當及徵發馬匹差出場所到著日割ヲ町村長ニ達シ市、町、村

長ニ在テハ徵發スヘキ馬匹ノ所有者ニ達スヘシ

第二十五條 郡市長ハ前條徵發馬匹差出場所到著日割ヲ定ムルニハ第十四條ニ示ス

徵發馬匹差出場所到著日割表ノ日次ヲ動員令ニ指定スル動員第一日ヨリ起リ曆日

ニ換算シテ定ムヘシ

第二十六條 郡市長ハ第二十四條及第二十五條ノ手續ヲ終ルトキハ直ニ徵發馬匹出

場名簿(第二樣式)ニ通テ調製シ郡長ニ在テハ町村長ノ調製シタルモノニ基キ調製シ又町村長ノ調製シタルモノヲ其儘應用ス之

ヲ携ヘテ徵發馬匹ノ到著期日前ニ其差出場所ニ到著シ其一通ヲ馬匹徵發委員長ニ

差出シ當該郡市徵發馬匹ノ檢査ニ立會フヘシ

第二十七條 郡市長ハ馬匹徵發委員長ヨリ檢査ニ合格シタル馬匹ノ爲メ徵發馬匹受

領證票(第二樣式)ヲ受クレハ其乙號ハ自ラ之ヲ保管シ丙號ハ馬匹所有者ニ交付ス

ヘシ

第二十八條 徵發馬匹差出場所若クハ同宿泊所ヲ設置スヘキ地ヲ管轄スル郡市長ハ

師團長若クハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ動員令ノ通達ヲ受クレハ豫定ノ

計畫ニ從ヒ直ニ其設備ニ著手シ當該委員到著スルトキハ尙ホ之ト協議ノ上速ニ其

完成ヲ期スヘシ

第二十九條 郡市長ハ徵發令ニ依リ前給ヲ要スル賃價ハ馬匹徵發委員長ニ徵發馬匹

買上代、操業者徵用賃金及徵發區外ニ於ケル輸送賃金其他賠償ニ關スル金額ハ當

該師團司令部ニ請求スヘシ但馬匹買上代ノ請求書ニハ乙號ノ徵發馬匹受領證票ヲ

添フヘシ

第三十條 徵發馬匹差出場所若クハ同宿泊所ノ設備ヲ擔任スル郡市長ハ其費用ヲ當

該委員長ニ請求スヘシ

第三十一條 馬匹徵發ノ達ヲ受ケタル馬匹ノ所有者若クハ其代理者ハ馬匹ヲ牽連レ
出發シ二十四時間ニ陸路約十里ノ割合ヲ以テ旅行シ市、町、村長ノ指定スル徵發馬
匹差出場所到着期日ノ午前六時ヨリ午後六時迄ノ間ニ差出場所ニ到着シ當該郡市
長ニ届出ツヘシ

第三十二條 馬匹徵發ノ達ヲ受ケタル馬匹ノ所有者其馬匹疾病ノ爲メ徵發ニ應スル
能ハサルトキハ達ヲ受ケタル時ヨリ二十四時間以内ニ憲兵若クハ警察官吏ノ證明
書ヲ以テ市、町、村長ニ届出ツヘシ

應徵ノ途中馬匹疾病ノ爲メ徵發ニ應スル能ハサル場合ニ在テモ亦前項ノ手續ニ依
ル

第三十三條 師團長ハ動員中豫定外ニ馬匹ヲ増加徵發セントスルトキハ別ニ徵發書
ヲ作り尙ホ其到着期日ヲ指定シテ當該郡市長ニ通達スヘシ

前項ノ場合ニ在テ郡市長ハ第二十四條及第二十六條ノ規定ニ準シ速ニ馬匹ヲ差出
スヘシ

第三十四條 動員完給後復員迄ノ間ニ於ケル馬匹ノ徵發ニ在テモ本細則ヲ準用スヘ
シ

附則

第三十五條 本則ハ明治三十二年十月三十日ヨリ施行ス

第三十六條 本則ハ明治三十年陸軍省令第四號馬匹調査及檢査施行規則ヲ實施セサ
ル島嶼ニハ當分施行セス

第三十七條 明治三十年陸軍省令第二十七號馬匹徵發事務規則ハ本則施行ノ日ヨリ
之ヲ廢止ス但明治三十二年度ニ於ケル既成ノ準備及徵發ノ實施ニ關シテハ馬匹徵
發事務規則ニ依ル

第一様式 動員用封筒

動馬何第何號何通		受領時刻	月	日	午前	時	分
		受領證			後		

- 一 動馬ノ下「何」ハ各官衙、公署ニ於テ文書ノ發送番號ニ冠スル符號トス
- 二 封筒用紙ハ赤色トス

第二様式

何地徵發馬匹出場名簿

何月何日出場牡(牝)何頭

何郡市

内 譯

検査成績	年齢	體尺	毛色	用役	馬匹所有者	徵發區ノ境界ヨリ	居住町村	差出場所ニ至ル里程	馬匹所有者氏名

何月何日出場牡(牝)何頭

- 一 「徵發馬匹出場名簿」ノ上「何地トハ差出場所ノ地名ヲ指ス
- 二 検査ノ成績トハ徵發委員ノ檢定セシ結果即チ合否ヲ記入スルモノトス
- 三 「徵發區ノ境界ヨリ差出場所ニ至ル里程」ハ馬匹所有者ノ居住町村ヨリ差出場所ニ至ル捷路ニ就キ調査シ一町未滿ノ間數ハ除算スヘキモノトス
- 四 用紙ハ野紙

第三樣式

徵發馬匹受領證票					甲號
馬匹所有者住所氏名					何第何號
操業者住所氏名					
性用役及等級					
徵發月日					
買上代					
明治年月日					
何市(町)(村)ニ於テ					
何師團馬匹徵發委員長					
官氏名印					

師團司令部印

徵發馬匹受領證票					乙號
馬匹所有者住所氏名					何第何號
操業者住所氏名					
性					
徵發月日					
買上代					
明治年月日					
何市(町)(村)ニ於テ					
何師團馬匹徵發委員長					
官氏名印					

師團司令部印

徵發馬匹受領證票	丙號
馬匹所有者住所氏名	

操業者住所氏名	
性	
徵發月日	
買上代	
明治年月日	何市(町)(村)ニ於テ
何師團馬匹徵發委員長	
官 氏 名 印	

- 一 番號ハ徵發馬匹番號札ノ番號ヲ記入スルモノトス
- 二 性用役及等級ノ區畫ニハ徵發馬匹番號札ノ牡(牝)乘(輓)(駄)及甲(乙)(丙)ヲ記入スルモノトス

附表

徵馬管區表

所管	師團	道府縣	郡	市	區
近衛	千	葉	悉皆	北高飾、南埼玉、北足立	
第一	東	京	悉皆		
第一	群	馬	悉皆		
第一	神	奈	三浦郡		
第一	埼	玉	北埼玉、大里、兒玉、比企、入間、秩父		
第二	新	潟	岩船、東蒲原、西蒲原、北蒲原、中蒲原、佐土、新潟市		
第二	宮	城	杜鹿、桃生、遠田、志田、玉造、加美、黒川、宮城、名取、柴田、刈田、伊具、互理、仙臺市		
第二	福	島	悉皆		
第二	愛	知	悉皆		
第二	三	重	桑名、員辨、三重、鈴鹿、河藝、安濃、一志、飯南、多氣、度會、志摩、北牟婁、南牟婁、津市、四日市市		
第三	靜	岡	悉皆		
第三	長	野	上伊那、下伊那、西筑摩、諏訪、南佐久、北佐久、小縣、埴科、上高井、下高井、上水内、下水内、長野市		
第三	神	奈	鎌倉、高座、中、足柄上、足柄下、愛甲、津久井、久良岐、橋樹、都筑、横濱市		
第三	山	梨	悉皆		
第三	京	都	愛宕、葛野、宇治、紀伊、乙訓、久世、綴喜、相樂、京都市		
第三	大	阪	北河内、南河内、中河内、東成、泉北、泉南、大阪市、境市		
第三	兵	庫	津名、三原		

第 四	奈 良	悉 皆	第 五	茨 城	悉 皆	岡 山	阿 賀、哲多、上房、川上、賀陽、都宇、窪屋、下道、淺口、小田、後月	廣 島	悉 皆	山 口	悉 皆	大 分	大分、北海部、速見	第 六	熊 本	玉名、飽託、上益城、下益城、宇土、天草、八代、球磨、葦北、熊本市	鹿 兒 島	悉 皆	宮 崎	悉 皆	第 七 北 海 道	悉 皆	青 森	悉 皆	秋 田	悉 皆	山 形	悉 皆	巖 手	悉 皆	宮 城	本吉、登米、栗原	富 山	悉 皆	石 川	悉 皆	岐 阜	悉 皆
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------------------------------------	--------	--------	--------	--------	--------	-----------	--------	--------	----------------------------------	-------------	--------	--------	--------	-----------------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	----------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

第 九	福 井	大野、阪井、吉田、足羽、丹生、今立、南條、敦賀、福井市	長 野	北安曇、南安曇、更級、東筑摩	新 潟	三島、刈羽、中魚沼、東頸城、西頸城、中頸城、古志、南蒲原、北魚沼、南魚沼	京 都	北桑田、南桑田、船井、加佐、天田、何鹿、與謝、竹野、中、熊野	大 阪	三島、豐野、西成	兵 庫	出石、城崎、美方、養父、朝來、氷上、多紀、川邊、有馬、武庫、明石、美嚢、加古、加東、加西、多可、印南、神崎、飾磨、宍粟、揖保、佐用、赤穂、神戸、姫路市	第 十	岡 山	吉野、英田、和氣、勝北、勝南、磐梨、邑久、東北條、東南條、西西條、西北條、久米南條、久米北條、大庭、眞島、赤阪、津高、上道、兒島、御野、岡山市	福 井	三方、遠敷、大飯	福 木	悉 皆	德 島	悉 皆	香 川	悉 皆	愛 媛	悉 皆	高 知	悉 皆	福 岡	悉 皆	大 分	東國東、西國東、宇佐、下毛、日田、玖珠、直入、大野、南海部	佐 賀	悉 皆	熊 本	菊池、阿蘇、鹿本	第 十 二	悉 皆
--------	--------	-----------------------------	--------	----------------	--------	--------------------------------------	--------	--------------------------------	--------	----------	--------	---	--------	--------	---	--------	----------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------------------------------	--------	--------	--------	----------	-------------	--------

●陸軍省令第十四號 (明治三十年五月二十二日)

陸軍兵籍規則

第一條 陸軍兵籍ハ陸軍軍人及補充兵ノ身上ニ關スル必要ノ諸件ヲ登記スルモノトス

第二條 陸軍兵籍ハ分テ第一種及第二種トス

第一種兵籍ハ將校同相當官及准士官ニ第二種兵籍ハ士官候補生見習醫官見習藥劑官見習獸醫官見習軍吏下士兵卒雜卒職工ヲ包
含ス以下同シ第一補充兵及諸生徒陸地測量部修技
所生徒ヲ除ク以
下同ニ用ユ

第三條 陸軍兵籍ノ正本ハ左ニ掲クル軍隊官衙學校教導團ヲ包含
ス以下同シニ備置クモノトス

一 現役將官同相當官監督部衛生部獸醫部上長官士官軍吏部士官ハ陸軍省但休職停職ノ者ヲ除ク

二 參謀官ハ參謀本部

三 軍隊附將校隊外ニ奉職スル歩、騎、砲、工、
輜重兵科中少尉ヲ包含ス及准士官ハ該隊本部

四 隊外現役將校歩、騎、砲、工、輜重
兵科中少尉ヲ除ク及准士官ハ官衙又ハ學校

- 五 現役軍樂部士官及准士官ハ官衙又ハ學校
- 六 現役下士兵卒歸休兵ヲ除クハ中隊又ハ「聯」大隊中隊又ハ「聯」大隊ヲ爲本部若クハ官衙學校
- 七 休職停職豫備役後備役ノ將官同相當官ハ師團司令部
- 八 休職停職豫備役後備役將校同相當官將官同相當官ヲ除ク准士官下士兵卒歸休兵及第一補充兵ハ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部
- 九 士官候補生見習醫官見習藥劑官見習獸醫官見習軍吏其ノ他諸生徒ハ聯隊聯隊ヲ爲ササル隊ニ在テハ該隊本部又ハ官衙學校
- 第四條 將校將官ヲ除ク及准士官ノ兵籍ハ陸軍省ニ將官同相當官參謀官隊外中少尉憲兵科ヲ除ク及監督部衛生部獸醫部軍吏部將校相當官ノ兵籍ハ官衙又ハ學校ニ其ノ副本ヲ備置クヘシ但豫備役後備役將校同相當官ノ兵籍ハ總テ陸軍省ニ其ノ副本ヲ備置クモノトス
- 豫備役後備役將校同相當官及下士ニシテ官衙學校又ハ憲兵隊ニ奉職スル者ニ在テハ前項ノ外更ニ副本ヲ其ノ官衙又ハ本部ニ備置クヘシ

- 第五條 第一種兵籍ハ新タニ將校同相當官及准士官ニ任セラレタルトキ軍隊官衙學校ニ於テ正副本ヲ調製シ其ノ一本ハ順序ヲ經テ一週日以内ニ發送シ陸軍省ヘ差出スヘシ但任官同時ニ他ニ轉屬スルモノハ其ノ一本ヲ新所屬ニ送付スヘシ
- 第六條 第二種兵籍ハ入隊又ハ入校ノトキ該隊又ハ學校ニ於テ調製スヘシ但第一補充兵ノ兵籍ハ其ノ始メテ役ニ就クトキ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ於テ調製スヘシ
- 第七條 轉職轉役其ノ他所屬ヲ變換スルトキハ原所屬ヨリ直ニ其ノ兵籍ノ正本又ハ副本ヲ新所屬ヘ送致スヘシ但新ニ參謀官ニ補セラレ又ハ中小尉憲兵科ヲ除クニシテ隊外ニ轉シ若クハ第四條第二項ニ該ル者アルトキハ原所屬ニ於テ副本ヲ調製シ之ヲ新所屬ニ送付スヘシ
- 第八條 第二補充兵ノ兵籍ハ補充兵名簿ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ備置クヘシ
- 第九條 現役中傷痍疾病ニ由リ常備後備役免除兵役免除トナリ又ハ服役十二箇年四箇月ヲ過キ若クハ現役定限年齢ニ滿テ免官免役トナリタル者及死亡者ノ兵籍正本ハ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ送付スヘシ

附則

第十條 本則發布前調製ノ兵籍ハ其ノ儘之ヲ應用シ漸次改正様式ニ依リ調製スヘシ

(「内ハ孰モ朱書」)

料紙西ノ内

九寸

兵科 何兵	所管 何師團(何部)	本籍 何府(縣)何郡(區)何市(町)何村(番地)	氏名 「某長(次)男(兄)(弟)(戸主)」 「爵 何 某」
賞典 何年何月日(何々ノ役何々ニ付)叙勳何等金何百圓下賜	刑罰 何年何月日何々ノ科ニ依リ謹慎何日	公傷公病 何年何月日何地ニ於テ何ニ依リ何傷(病)ヲ受ク	誕生 何年月日「死亡」何年月日何地ニ於テ戰(病)死
陸軍出身 何年何月日何省出仕 前ノ履歷 何年何月日何ニ依リ免出仕	陸軍出身後ノ履歷	兄弟 兄(弟) 某 何年月日生 姉(妹) 某 何年月日生	妻 何年月日合式婚姻(婚姻) 「何某長(次)女 某」
父 「某」祖父「某」	母 「某」祖母「某」	子 嗣子長男(養子) 某 何年月日生 長女 某 何年月日生 次男 某 何年月日生	

明何年 何月日士官候補生トシテ何隊入隊	明何年 何月日何兵少尉○何月日正八位	明何年 何月日何國留學何月日出發何月日歸朝○何月日何聯隊附(何課附)	明何年 何月日免第何聯隊附(本職)第何聯隊附(何職) 何月日後備役
明何年 何月日士官學校入校○何月日退校 ○何月日見習士官	明何年 何月日一等給下賜○何月日何々ニ付何地へ派遣(巡廻)何月日歸著 (辭令アル) (モノニ限ル)	明何年 何月日何々委員陸軍省辭令ニ限ル 軍法會議判士長(判士)	明何年 何月日ヨリ何月何日迄何隊ニ於テ勤務演習

第一種陸軍兵籍

- 「一 賞罰ハ陸軍出身以來ニ係ハルモノヲ掲ク下士ヨリ進級ノモノハ下 候補生及生
徒中ノ罰科ハ記載セス」
- 「二 陸軍出身後ノ履歴ハ逐年順次ニ記載スヘシ若シ某ノ年間記スヘキ事項ナキト
キト雖トモ空畫ヲ置カサルモノトス」
- 「三 任免補職ノ月日ハ辭令ノ日ヲ記載スルモノトス」
- 「四 出戦務ハ朱書スヘシ但出戦軍ニ編入セラレタル者外國戰ニ當リテハ内國港灣
發著ノ月日、内國戰ニ當リテハ戰地ニ臨ミタル月日及戰地ヲ去リタル月日、臨
戰(合圍)地境内ニ於テ服役シタルトキハ其始終ノ月日又外國ノ鎮戍ニ編入セ
ラレタル者ハ内國港灣並該國港灣發著ノ月日ヲ記載スヘシ」
- 「五 父母祖父母兄弟姊妹ハ同戶籍中ノ者ヲ記載スヘシ」
- 「六 妻ノ區畫合式婚姻トハ陸軍武官結婚條例ニ依リ結婚シタルモノヲ謂ヒ婚姻ト
ハ軍籍ニ入ラサル前結婚シタルモノヲ謂フ」

料紙西ノ内紙

九寸

兵科 何兵	所管聯隊 何大隊	何師團 何大隊	本籍 何府(縣) 何郡(區) 何市(町) 何村(番地)	官等 級	氏名 「某長(次)男(兄)(弟) (戶主)」 「爵何 某」					
	族籍 (華(土)族 (平民))									
入隊 何兵(士官候補生)トシテ何年何月何日何隊(教導團)へ入隊	適任 何年何月何日	日士官(下士官)トシテ何年何月何日	特業 或ハ何々	電信術 或ハ何々	誕生 何年月日 死亡 何年何月何日 於テ戰(病)死					
	證書 賜フ	證書ヲ	賜フ	何々						
現役年 何箇年	何年何月何日ヨリ何年何月何日ニ至ル	備	考	徵別	盾	額	鼻	顯	眉	痘
再服役年 何箇年	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
豫備役年 何箇年	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
後備役年 何箇年	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
免役除年 何年何月何日	何々ニ依リ免役(免官)(除役)	何年何月何日	何々ニ依リ免役(免官)(除役)	何年何月何日	何々ニ依リ免役(免官)(除役)	何年何月何日	何々ニ依リ免役(免官)(除役)	何年何月何日	何々ニ依リ免役(免官)(除役)	何年何月何日
公傷公病 何年何月何日何地ニ於テ何々ニ依リ何傷(病)ヲ受ク	何年何月何日何地ニ於テ何々ニ依リ何傷(病)ヲ受ク	何年何月何日	何地ニ於テ何々ニ依リ何傷(病)ヲ受ク	何年何月何日	何地ニ於テ何々ニ依リ何傷(病)ヲ受ク	何年何月何日	何地ニ於テ何々ニ依リ何傷(病)ヲ受ク	何年何月何日	何地ニ於テ何々ニ依リ何傷(病)ヲ受ク	何年何月何日

褒	何年何月日褒賞休業何日間○何年何月日善行證書ヲ賜フ	妻	何年何月日合式婚姻(婚姻)
賞		嗣子長男 (養子) 某 何年何月生	何某長(次)女某
刑	何年何月日何々ノ科ニ依リ輕營倉(禁足)何日間	長女 某 何年何月生	何年何月生
罰		次男 某 何年何月生	何年何月生
第二種陸軍兵籍			
陸軍出身			
何年何月日何省御用掛			
前ノ履歷			
陸軍出身後ノ履歷			
明	何月日教導團卒業○同日陸軍何兵	明	何月日給養掛(何々書記)○何月日
治	二等軍曹○同日步兵第何聯隊附○	治	第何聯隊附免何司令部附
何	何月日何中隊附	何	何月日
年	何月日一等卒(喇叭手)	年	何月日

陸軍兵籍規則

廿九

●陸軍省令第十五號 (明治三十年五月二十二日)

陸軍戰時名簿規則

第一條 陸軍戰時名簿ハ陸軍軍人軍屬及兵役義務アル者動員以後身上ニ關スル必要ノ諸件ヲ登記スルモノトス

第二條 陸軍戰時名簿ハ分テ第一種及第二種トス

第一種戰時名簿(第一様式)ハ將校同相當官准士官、第二種戰時名簿(第二様式)ハ下士兵卒雜卒職工ヲ包補充兵國民兵軍屬ニ用ユ

第三條 戰時名簿ハ將校同相當官准士官下士兵卒ノ始メテ任官サレタルトキ又ハ入隊シタルトキ軍隊官衙學校教導團ヲ包含ニ於テ調製スヘシ

第一補充兵ノ戰時名簿ハ始メテ其ノ役ニ就クトキ聯隊區司令部警備隊區ニ在テハ同ニ於テ調製スヘシ但人相ハ本人ノ始メテ召集ニ應シタルトキ聯隊區司令部ヨリ名簿ヲ召集部隊ニ送付シ該部隊ニ於テ之ヲ記入スルモノトス

第一國民兵ノ戰時名簿ハ編入前調製ノモノヲ以テ之ニ充テ第二補充兵及第二國民兵ノ戰時名簿ハ其ノ召集ニ應シタルトキ諸部團隊ニ於テ調製スヘシ

第四條 戰時名簿ハ復員後更ニ之ヲ調製シ舊名簿ニ記載スル叙位叙勳任官進級其ノ他履歷中主要ノ事項ヲ兵籍ニ轉載スヘシ但第一國民兵ノ名簿ハ更ニ調製スルヲ要セス

第五條 留守擔當者ノ氏名現役將校同相當官ノ寄留地及勤員前ノ所屬ハ應用ノ際軍隊官衙學校ニ於テ記入スルモノトス但師團長ハ平時ヨリ之ヲ記入スルノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六條 豫備役後備役下士兵卒第一補充兵元下士以下ナル第一國民兵ノ戰時名簿ニ記載スル人相ハ召集ノ際諸部團隊ニ於テ本人ニ照合シテ訂正スルモノトス

第七條 戰時名簿ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ備フヘシ

在職將校同相當官准士官現役下士兵卒歸休兵ヲ除ク軍屬ハ軍隊官衙學校

休職停職豫備役後備役將官同相當官ハ師團司令部其ノ召集中ハ諸部團隊

休職停職豫備役後備役上長官士官同相當官准士官豫備役後備役下士兵卒歸休兵第

一補充兵ハ聯隊區司令部其ノ召集中ハ諸部團隊

第一國民兵ノ戰時名簿ハ本籍地市區役所町村役場戶長役場及之ニ準スヘキモノ

第八條 第一國民兵役ニ轉入シタル者ノ戰時名簿ハ聯隊區司令部警備隊區ニ在テヨハ警備隊司令部

リ本籍地ノ島司郡市區長ニ送付スヘシ島司郡長ニ在テハ町村長戶長及之ニ準スヘキ者ニ送付スヘシ

第九條 轉職轉役及在郷者ノ轉籍等所屬ヲ轉換シタル者ノ戰時名簿ハ舊所屬ヨリ新所屬ニ送付スヘシ但現役ヨリ第一國民兵役ニ轉入シタル者ノ戰時名簿ハ聯隊區司令部ニ送付スヘシ

第十條 士官候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、見習軍吏ノ戰時名簿ハ戰役中勤員ヲ行ヒタル諸部團隊ニ附屬シタルトキ其ノ諸部團隊ニ於テ本人ノ階級ニ應シ將校下士兵卒ニ準シテ調製スヘシ

附則

第十一條 第一國民兵戰時名簿ハ從前ノ名簿ヲ以テ之ニ充テ漸次改正ノ名簿ニ改ムルモノトス

料紙西ノ内紙半葉

九寸

(内ハ孰モ朱書)

族籍 (華(士)族 (平民))		本籍 (何府(縣)何郡 (市)(區)何町 (村)何番地)	官名 (何兵大尉)氏 (某長(次)男(兄) (弟)(戶主)) (爵)何某
寄留 (記載方右ニ同)	位階 (從何位 勳等何等 功何級)	名	
動員前ノ所屬 (在郷將校同相常官 及准士官ニ在テハ其所 ノ所屬聯隊區名ヲ記スシ)	動員後ノ所屬 (何兵第何 聯隊(大隊))	誕生 (何年月日)	死亡 (何年月日何 地ニ於テ戰(病) 死)
賞典 (動員後ニ係ルモノヲ記載ス)	刑罰 (動員後ニ係ルモノヲ記載ス)		
動員後履歷		動員前履歷	
<p>〔明治何年何月何日第何師團參謀被仰付○何月何日何地出發同何日何地上陸○何月何日何地ニ於テ戰闘○何月何日任少佐同日第何聯隊第何大隊長被仰付○何月何日何地ニ於テ戰闘ノ際何部ニ貫通銃傷ヲ受ケ何地病院ニ入ル○何年何月全癒退院何地ヲ經何月何日復隊○何月何日何々ノ功ニ依リ何々ニ叙セラレ何勳章ヲ賜フ○何月何日何地出發同何日何地ニ於テ乘船同何日何地ニ上陸何月何日凱旋〕</p> <p>〔記載方ハ其梗概ヲ示スノミ宜シク類ヲ推シテ記載スヘシ(動員前履歷)ノ區畫ニハ任官叙位叙勳ニ關シ調査上必要ノ事項ヲ記載シ(動員後履歷)ノ區畫ニハ動員後平定迄ニ係ル任官叙位叙勳功績其ノ他主要ナル經歷ヲ記載スヘキモノトス〕</p> <p>留守擔當者ノ住所氏名</p> <p>大尉何中隊長ニ補セララル○何年何月何々ニ依リ謹慎何日○何年何月何日中隊長ヲ免シ何々ニ補セララル○何年何月何々ノ功ニ依リ何々)</p>			

長カ川

第一種戰時名簿

料紙西ノ内紙半葉

九寸

族籍 (華(士)族 (平民))	本籍 (何府(縣)何郡 (市)(區)何町 (村)何番地)	官名 (何兵何等 軍曹)氏 (某長(次)男(兄) (弟)(戶主)) (爵)何某
寄留 (記載方右ニ同)	等級 (一等卒)	
認識票 (第何番)	寄留 (記載方右ニ同)	
<p>〔記載方ハ其梗概ヲ示スノミ宜シク類ヲ推シテ記載スヘシ(動員前履歷)ノ區畫ニハ任官叙位叙勳ニ關シ調査上必要ノ事項ヲ記載シ(動員後履歷)ノ區畫ニハ動員後平定迄ニ係ル任官叙位叙勳功績其ノ他主要ナル經歷ヲ記載スヘキモノトス〕</p> <p>留守擔當者ノ住所氏名</p> <p>大尉何中隊長ニ補セララル○何年何月何々ニ依リ謹慎何日○何年何月何日中隊長ヲ免シ何々ニ補セララル○何年何月何々ノ功ニ依リ何々)</p>		

陸軍戰時名簿規則

●陸軍第十三號 (明治十四年四月廿五日)

陸軍武官結婚條例

第一條 凡ソ軍人ハ最モ其品位ヲ重ンス故ニ其配偶ヲ擇ミ以テ終身ノ活計ヲ維持セシメ家政ヲ納メテ以テ其職掌ヲ確守セシム若シ配偶其匹ヲ擇ハス之ヲ輕忽ニセハ一ハ以テ其品位ヲ傷ケ一ハ以テ其營生ニ煩ハサレ遂ニ其職掌ヲ汚シ隨テ全軍ノ精カヲ殘フニ至ル仍テ左ニ其制限ヲ設ク

第二條 凡ソ軍人ノ結婚セント欲スル者將官並ニ同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ准士官以上ニ在テハ陸軍卿ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 下士卒常備服役中ハ結婚スルヲ許サス然レモ再服役以上ノ下士並ニ豫備後備軍服役中ノ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得但憲兵並會計軍醫馬醫軍樂各部ノ下士卒徵兵令ニ依リ徵集シタル看病卒ヲ除ク及ヒ砲兵監護工兵監護ニ在テハ常備服役中ト雖モ所管長官ノ許可ヲ得テ結婚スルヲ得

第四條 結婚ノ許可ヲ得ントスル者ハ第一號書式ニ照シ出願スヘシ

第五條 將官並ニ同等官ニ在テハ陸軍卿與書シ准士官以上ニ在テハ所管長官下士以下ニ在テハ所屬隊長(課長)豫備及ヒ後備軍下士以下ニ在テハ後備軍使府縣駐在官

奥書スヘシ

第六條 其娶ルヘキ婦人ハ行狀端正ノ者ニ非レハ結婚スルヲ許サス故ニ其行狀ヲ證スル爲メ第二號書式ニ照シ其婦ノ所在地戸長ノ調印シタル身元証書ヲ添ヘシ

第七條 現役士官並ニ同等官以下ニ在テハ家計保護金トシテ左ノ金額ヲ納メシメ陸軍省ニ之ヲ保存シテ以テ其生計ヲ保護セシム故ニ結婚出願ノ時第三號書式ノ證書ヲ出スヘシ

大尉並同等官 四百六拾圓

中小尉並同等官 六百圓

准士官 八拾圓

下士 八拾圓

第八條 第三條但書ニ載スル諸卒ニ在テ結婚スル時ハ第七條ニ準シ家計保護金ヲ納メシム其ノ金額ハ下士ニ同シ

第九條 第七條ノ金額ハ本人又ハ其娶ルヘキ婦人ノ所有或ハ雙方ノ所有ヲ合シタルモ妨ケナシ但シ公債證書ヲ以テ納ムルモ妨ケナシト雖モ大藏省定ムル所ノ價格ヲ以テ之ヲ算シ第七條ノ全額ニ相當セシム

第十條 結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速ニ届出ヘシ但シ家計保護金ハ本文届出同時ニ差出ヘシ

第十一條 家計保護金ヲ還付スルハ左ノ項目ニ依ルヘシ

第一項 上長官ニ昇進セシ時

第二項 恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル時

第三項 本人死歿スルカ又ハ現役ヲ離ル、時

第四項 其妻離別スルカ又ハ死亡シタル時

第五項 天災地變ニ罹リ家産擧テ滅亡シタル時

第十二條 結婚願書式並ニ證書式左ノ如シ

第一號書式

結婚願

使府縣國郡區町村
族籍職業

何某何女(姉)(妹)
某

年月日生
年號月何年何ヶ月

某儀

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致シ度依テ別紙身元證書(家計保護金證書)
相添差出候間御許可被下度此段奉願候也

年號月日

官

姓

名

印

太政大臣(陸軍卿)(所管長官)宛

前書之趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也

陸軍卿(所管長官)(何隊長)(何課長)

官

姓

名

印

第二號書式

身元證書

使府縣國郡區町村
族籍職業

何某何女(姉)(妹)

某

年號月日生
年號月何年何ヶ月

右ハ行狀端正ノ者ニ有之候此段致保證候也

使府縣國郡區町村
戸長アラサ
ル地ハ區長

年號月日

姓

名
印

第三號書式

家計保護金證書

一金何百何拾圓也

右ハ今般結婚奉願候ニ付御許可ノ上ハ家計保護金トシテ可差出候也

年號月日

官

姓

名

印

三十三年
五月勅令
第二百十
四號參看

●勅令第二百二十六號 (明治三十一年十月一日)

陸軍士官學校條例

第一條 陸軍士官學校ハ陸軍各兵科士官候補生ヲ以テ生徒ト爲シ初級士官タルニ必
要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ教育總監之ヲ定ム

第三條 生徒教育ノ實施ハ教則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ
教育總監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 少將大佐

副官 大中尉

教官 中少佐、大中尉、軍醫、陸軍教授、陸軍助教

生徒隊長 中少佐

生徒隊中隊長 大尉

生徒隊附 中尉

軍醫

獸醫

軍吏

准士官、下士、判任文官

第五條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 軍事學教官ハ軍事學各科ノ授業ヲ分擔シ佐官教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第八條 馬術教官ハ生徒ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校廡一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第九條 文官教官ハ外國語學ノ授業ヲ分擔ス

第十條 生徒隊長ハ生徒隊ヲ統ヘ生徒ノ訓育ヲ監督シ各中隊長ヲシテ擔任ノ訓育ニ任セシメ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任ス

第十一條 中隊長ハ生徒隊附士官ヲ指揮シ中隊生徒ノ訓育ヲ擔任シ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス

第十二條 生徒隊附士官ハ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ日常生徒ノ躬行ヲ監視シ分擔

專ラ擔保ノ責ニ任ス

勅令第二百二十八號 (明治三十一年十月一日)

陸軍中央幼年學校條例

第一條 陸軍中央幼年學校ハ陸軍地方幼年學校卒業者ヲ以テ生徒ト爲シ地方幼年學校ノ教育ニ連繫シテ士官候補生タルニ必要ナル普通學科及軍人ノ豫備教育ヲ爲シ陸軍各兵科士官候補生ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ教育總監之ヲ定ム

第三條 生徒教育ノ實施ハ敎則ニ依ル該敎則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 大中佐

副官 大中尉

教官 大中尉、陸軍教授、陸軍助教

生徒隊中隊長 大尉

生徒隊中隊附 中尉

三十三年
五月勅令
第二百十
五號參看

軍醫

獸醫

軍吏

准士官、下士、判任文官

第五條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任シ東京陸軍地方幼年學校ヲ管轄ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 馬術教官ハ生徒ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校庭一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第八條 文官教官ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス

教官中適任者一名ヲ選テ教頭ト爲シ教授部全般ノ授業ヲ監視シ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任セシム

第九條 中隊長ハ中隊附士官ヲ指揮シ中隊生徒ノ訓育ヲ擔任シ軍人精神ヲ涵養シ生徒ヲシテ軍紀ニ慣熟セシメ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス

第十條 中隊附士官ハ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ日常生徒ノ躬行ヲ監視シ自ラ模範

ト爲リテ之ヲ指導シ分擔ノ訓育ニ就テハ其責ニ任ス

第十一條 生徒ノ修學期ハ九月一日ヨリ翌翌年五月下旬ニ至ル二十一箇月トシ之ヲ二學年ニ分チ各學年ハ九月一日ヨリ開始ス

第十二條 生徒ノ修學ニ所要ノ器具及圖書等ハ貸與又ハ支給スルコトヲ得

第十三條 陸軍地方幼年學校條例第十二條乃至第十八條ノ規定ハ本校生徒ノ爲メニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十五條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

一 學術ノ修得全カラスシテ卒業ノ目途ナキ者

二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

四 傷痍疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者

五 卒業試験ニ落第セシ者

第十六條 生徒中各學年ニ於テ所定ノ學術ヲ修メ得サル者或ハ疾病等ニ依リ卒業試験ヲ受ケ得サル者又ハ卒業試験ニ落第セシ者ト雖モ尙望ミアル者ハ滯學補修ヲ爲

三十二年
五月勅令
第八十號
參看

サシメタル後チ卒業セシメ又ハ一學年延期修學セシムルコトヲ得但滯學日數ハ士官候補生教育ニ支障ナキ度トシ又延期ハ全學期ヲ通シテ一回限リトス

第十七條 生徒中卒業試験ニ及第スルモ傷痍疾病等ニテ士官候補生ト爲スヲ得サル者ニハ單ニ卒業證書ヲ附與シテ退校セシム

第十八條 前三條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定處分ス

第十九條 生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試験規格ヲ撰ヒ教育總監ニ上申ス教育總監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試験ヲ行ハシム

第二十條 卒業試験ヲ終レハ校長ハ各教官及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニハ卒業證書ヲ附與ス

第二十一條 教育總監ハ前條卒業者中士官候補生トナスヘキ者ヲ定メ士官候補生ヲ命シ各隊ニ配賦ス

前項士官候補生ヲ命セラレタル生徒ニハ入隊前ニ於テ一週間以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十二條 滯學ヲ命セラレタル生徒補修終レハ前諸條ニ準シテ取扱フモノトス

第二十三條 每年生徒ニ五週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十四條 教官、中隊長及中隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

附 則

第二十五條 明治三十二年前入學ノ本校生徒ハ其卒業ニ至ル迄本條例第十一條及第十三條ノ規定ハ左ノ各條ニ據リ取扱フ

第二十六條 生徒修學期ハ概テ三箇年トシ各學年ハ毎年九月ニ始メ而シテ第三年ニ在リテハ五月ニ終ル

第二十七條 生徒ハ官費、半官費、自費ノ三種ニ分ツ

官費生徒ハ一切ノ經費ヲ官給シ且手當金ヲ給ス半官費生徒ハ小被服、賄料ノ經費自費生徒ハ被服、糧食一切ノ經費ヲ納メシム其金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十八條 戰死又ハ公務ノ爲メ死亡シタル高等官ノ孤兒ハ官費生徒トス

第二十九條 前條ノ外官費、半官費、自費生徒ノ區分ハ教育總監之ヲ裁定ス

三十三年
五月勅令
第二百十
六號參看

●勅令第二百二十九號（明治三十一年十月一日）

陸軍地方幼年學校條例

第一條 陸軍地方幼年學校ハ陸軍將校ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ生徒ト爲シ軍事上ノ必要ヲ顧慮シテ普通學科ヲ教授シ軍人精神ヲ涵養シ陸軍中央幼年學校生徒ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 陸軍地方幼年學校ハ左ノ六箇所ニ置ク

東京 仙臺 名古屋 大阪 廣島 熊本

第三條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ教育總監之ヲ定ム

第四條 生徒教育ノ實施ハ教則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ

教育總監ニ上申シ 東京陸軍地方幼年學校長ニ在テハ陸軍中央幼年學校長ヲ經由ス以下倣之教育總監之ヲ裁定ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 少佐

副官 中尉

教官 陸軍教授、陸軍助教

生徒監

大中尉

軍醫

軍吏

下士、判任文官

校長以下將校同相當官及下士ハ豫備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得其身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第六條 校長ハ教育總監東京陸軍地方幼年學校長ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ各學科ノ授校ヲ分擔ス

教官中適任者一名ヲ選テ教頭ト爲シ教授部全般ノ授業ヲ監視シ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任セシム

第九條 生徒監ハ生徒ノ訓育ヲ擔任シ軍人精神ヲ涵養シ日常其躬行ヲ監視シ自ラ模範ト爲リテ之ヲ指導シ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス

第十條 生徒ノ修學期ハ九月一日ヨリ第四年ノ八月下旬ニ至ル三十六箇月トシ之ヲ

三十二年
五月八日
第九號參看

三箇年ニ分チ各學年ハ毎年九月一日ヨリ開始ス

第十一條 生徒ノ修學ニ所要ノ器具及圖書等ハ貸與又ハ支給スルコトヲ得

第十二條 生徒ハ總テ校内ニ寄宿セシム

生徒ハ入學中被服、糧食其他ノ費用トシテ若干ノ納金ヲ爲スモノトス之ヲ自費生ト稱ス

第十三條 生徒中左ノ各項ニ該ル者ハ列記ノ順序ニ從ヒ資産ヲ顧慮シ若干名ヲ限リテ特ニ納金ノ全額ヲ免除スルコトヲ得之ヲ特待生ト稱ス

一 戰死及戰傷ニ依リ死歿シ又ハ戰役中危難ヲ冒シタルニ起因シテ死歿シタル陸海軍將校及相當官並ニ高等文官ノ孤兒

二 現職中公務ノ爲メニ死歿シタル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

三 增加恩給權ヲ得タル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

四 恩給權ヲ得タル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

五 特ニ國家ニ功勞アル高等官ノ孤兒

第十四條 生徒中左ノ各項ニ該ル者ハ列記ノ順序ニ從ヒ資産ヲ顧慮シ若干名ヲ限リテ特ニ納金ノ内帽、日覆、絨衣袴肩章、夏衣袴、外套及精米料ヲ免除スルコトヲ得之ヲ半特待生ト稱ス但前條ノ各項ニ該ル者ノ内特待生ト爲サ、ル者ハ之ヲ半特待生

三十三年
一月八日
第八號參看

ト爲スコトヲ得

一 現職ニ在ル陸海軍尉官及同相當官ノ兒子

二 恩給權ヲ得タル陸海軍尉官及同相當官ノ兒子

三 陸海軍少佐及同相當官ニ名譽進級ヲ爲シタル者ノ兒子

第十五條 家督相續者タル養子ハ前二條中ノ孤兒或ハ兒子ニ準ス

第十六條 特待生半特待生ト爲スヘキ人員及其區分ハ教育總監陸軍大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第十七條 本條例中孤兒及兒子ハ總テ同戶籍内ニ現在スルモノニ限ル又一家ヨリ重複シテ特待ヲ受クルヲ得サルモノトス

第十八條 特待生、半特待生及自費生ノ納金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十九條 生徒中止ムヲ得サル事故アリテ退校ヲ願出ル者アルトキハ其事情ニ依リ之ヲ許スコトアルヘシ

第二十條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

一 學術ノ修得全カラスシテ卒業ノ目途ナキ者

二 屢法則ヲ犯シ又ハ品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

三 傷痍疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者

四 卒業試験ニ落第セシ者

第二十一條 生徒中各學年ニ於テ所定ノ學科ヲ修メ得サル者或ハ疾病等ニ依リ卒業試験ヲ受ケ得サル者又ハ卒業試験ニ落第セシ者ト雖モ尙望ミアル者ハ一學年延期修學セシムルコトヲ得

第二十二條 前三條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定處分ス

第二十三條 生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試験規格ヲ撰シ教育總監ニ上申ス教育總監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試験ヲ行ハシム

第二十四條 卒業試験ヲ終レハ校長ハ各教官生徒監ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十五條 教育總監ハ地方幼年學校長ヲシテ前條卒業者ニ中央幼年學校へ入學ヲ命セシム

第二十六條 前條ノ生徒ハ中央幼年學校ニ入校ノ期日ニ至ル迄休暇ヲ與ヘ歸省又ハ他行ヲ許スコトヲ得但此間ニ於ケル生徒ノ身分ハ地方幼年學校ニ屬ス

第二十七條 毎年生徒ニ五週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

三十二年
四月勅令
第四百十五
號參看

●勅令第四百四十一號 (明治二十八年十月四日)

陸軍六週間現役兵條例

- 第一條 徵兵令第十三條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服セシムヘキモノハ教職ニ就キタル年若クハ其翌年ニ於テ其居住地師管内ノ歩兵隊警備隊ヲ置ク島嶼ニ在テハ最寄ノ歩兵隊ニ編入シ服役セシム
- 第二條 六週間現役兵ノ入營期日ハ毎年六月一日臺灣ニ在テハ十月一日故ニ依リ期日ヨリ三日以内ニ入營シ難キモノハ翌年徵集ス
- 第三條 現役服役日數ハ入營期日ヨリ起算ス
- 第四條 六週間現役兵ノ教育ハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ隊長警備隊ニ在テハ司令官以下之ニ倣フ其責ニ任ス
- 第五條 六週間現役兵中勤務勉勵品行方正ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スル部隊ノ幹部タルヲ得ヘキ材幹アルモノニハ聯隊長其成績ヲ具シ順序ヲ經テ師團長臺灣ニ在テハ旅團ノ認可ヲ受ケ國民軍幹部適任證書ヲ授與ス
- 第六條 六週間現役兵ノ身體檢査ハ入營スヘキ年ニ於テ一般ノ徵兵檢査ト同時ニ之

ヲ行フ徵集ニ適セサルモノハ徵兵検査規則ニ照シ處分ス
北海道臺灣及沖繩縣ニアル者ノ身體検査ニ關スル規定ハ陸軍大臣別ニ之ヲ定ム
第七條 検査往復旅費及入營旅費ハ官給ス

附則

第八條 北海道ニ在ル者ハ第七師管ニ常備歩兵隊ヲ置クマテハ第二師管ノ歩兵隊ニ編入シ服役セシム

第九條 本令ハ明治廿九年四月一日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●陸軍省令第九號 (明治三十年四月五日)

陸軍六週間現役兵條例施行細則

第一條 六週間現役兵ノ身體検査ハ教職ニ就キタル年居住地所在ノ聯隊區内又ハ警備隊區内便宜ノ徵兵器ニ於テ之ヲ行フ但其ノ年ノ入營期日ニ切迫シ若クハ入營期日後教職トナリタル者ハ翌年廻トス

第二條 府縣廳ニ於テハ徵兵事務條例施行細則第一様式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ作り身體検査ニ先タチ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官沖繩警備隊區ニ在テハ該司令官以下同シニ送付シ検査ノ手續ヲ協議スヘシ但官立小學校ノ教職モ亦本文同様該校所在府縣ニ於テ取扱フヘシ

第三條 聯隊區司令官警備隊司令官ハ六週間現役兵ノ身體検査ニ關シテハ尋常徵兵ト同一ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ附録第一様式ノ合格證書ヲ付與シ其ノ名簿ヲ師團長ニ差出シ且其ノ成績ヲ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ通知スヘシ
其ノ徵集ニ適セサル者ハ徵集延期免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ徵集延期名簿ヲ北海道廳又ハ府縣廳ニ送付シ合格者並ニ徵集延期者ノ人名書徵集免除名簿及兵役

三十一年
三月省令
第四號參
看
三十二年
四月省令
第九號參
看

免除名簿ヲ本籍所管ノ島司郡市長 北海道ニ在テハ北海道廳支廳長、東京市、京都市、大阪市及沖繩縣ノ區ニ在テハ區長以下同シニ送付スヘシ

第四條 師團長ハ合格者在職地ノ遠近ニ應シ適宜之ヲ各隊ニ配付スヘシ

第五條 北海道及沖繩縣ニ在テハ師團長地方官協議ノ上時宜ニ依リ教職ニ就クヘキ年身體檢査ヲ爲シ又北海道ニ在テハ居住地所在ノ聯隊區外ニ於テ身體檢査ヲ爲スコトヲ得

一 北海道ニ在ル者ハ札幌聯隊區司令部沖繩縣ニ在ル者ハ鹿兒島聯隊區司令部ニ在テ身體檢査ヲ行フ但北海道ニ在テ師範學校卒業ノ翌年以後ノ者ニ在テハ札幌聯隊區司令部又ハ函館聯隊區司令部若クハ該聯隊區内便宜ノ徵兵署ニ於テ行フ

二 北海道廳及沖繩縣廳ニ於テハ教職トナルヘキ年豫メ第二條ニ準シ名簿ヲ作り該聯隊區司令部ニ送付スヘシ

三 札幌聯隊區司令官ハ三月一日迄鹿兒島聯隊區司令官ハ成ルヘク五月二十五日

ヨリ同月三十一日迄ノ間ニ於テ身體檢査ヲ行フヘシ但第一項但書ニ該ル者ハ此ノ限ニアラス

四 鹿兒島聯隊區司令官ハ合格者ノ人名書ヲ師團長ニ差出シ又其ノ名簿ヲ聯隊長ニ送付スヘシ

五 身體檢査ノ爲メ沖繩縣ヨリ鹿兒島聯隊區司令部ニ到ラシムヘキ者ハ縣官一名之ヲ引率セシムヘシ

第六條 身體檢査後入營前教職ヲ罷メタル者アルトキハ道廳府縣廳ヨリ直ニ師團司令部ニ通報スヘシ

第七條 臺灣ニ在ル者ノ身體檢査ハ左ノ諸項ニ依リ施行スヘシ

一 總督府ニ於テハ身體檢査ヲ受クヘキ者ヲ調査シ徵兵事務條例施行細則第一樣式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ作り最寄ノ步兵隊ニ送付シ身體檢査ヲ施行セシムヘシ

二 步兵隊長ハ第三條第一項ニ準シ身體檢査及徵否ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ合格證書ヲ付與シ合格者及徵集延期ニ属スル者ノ名簿ヲ總督府ニ差出シ總督府ニ

於テハ第四條ニ準シ合格者ヲ各歩兵隊ニ配賦スヘシ

三 歩兵隊長ハ合格者及徵集延期ニ屬スヘキ者ノ人名書若クハ徵集ニ適セサル者ノ名簿ヲ添ヘ本籍所管ノ聯隊區又ハ警備隊區徵兵官ニ通知シ該徵兵官ハ其ノ徵集ニ適セサル者ノ處分ヲ爲スヘシ

第八條 六週間現役兵退營スルトキハ聯隊長 獨立大隊ニ在テハ其ノ隊長警備 該名簿ヲ本籍所管ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付シ聯隊區司令官警備隊司令官ハ之ヲ島司郡市長ニ送付スヘシ

條例第五條ニ依リ國民軍幹部適任證書ヲ授與シタル者アルトキハ聯隊長其ノ旨ヲ名簿ニ記載シ其ノ國民軍幹部適任證書ハ附録第二様式ニ準シ調製スヘシ

第九條 國民軍幹部適任證書ヲ授與セラレタル者ニシテ懲戒處分ヲ受ケ又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ證書ヲ返還セシム

第十條 前諸條ニ掲クル者ノ外ハ師團長及道廳長官府縣知事協議ノ上之ヲ定メ臺灣ニ在テハ臺灣總督之ヲ定ムヘシ

附則

沖繩警備隊區ニ係ル事項ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス其以前ニ在テ警備隊區司令官ノ職務ハ聯隊區司令官之ヲ行フ

第一様式 用紙厚紙

陸軍六週間現役兵合格證書

府(縣)郡(市)町(村) 某(長)次(男)兄(弟) 本人戸主ナレハ 戸主ト記スヘシ 氏 名

右檢査合格ニ付此證書ヲ付與ス

年 月 日

何聯隊區司令官(警備隊司令官) 氏 名

凡曲尺六寸

心 得

- 一 此證書ヲ所持スル者ノ入營期日ハ六月一日トス 但疾病其他ノ事故ニ由リ期日ヨリ三日以内ニ入營シ 難キ者ハ翌年徵集セララル、モノトス
- 二 戰時若クハ事變ニ際シテハ其徵集ヲ延ハスコトアルヘシ

裏

表

凡曲尺六寸

陸軍六週間現役兵條例施行細則

フ六終

第二様式 用紙烏ノ子紙

七寸八分
五寸六分

第何號

國民軍幹部適任證書

府縣族籍

陸軍六週間現役兵 氏名

國民軍幹部適任ノ者

ト確認ス

明治何年何月何日

職官位勳功氏名

印職

(周圍ノ模様ハ畧ス)

三十二年
四月勅令
第四百十四
號參看

●勅令第九十一號 (明治二十九年五月八日)

陸軍一年志願兵條例

第一條 徵兵令第十三條ニ據リ一年志願兵トナル者ハ服役スヘキ兵科及衛戍地ヲ選
フコトヲ得但第四條ニ當ル者ハ此限ニ在ラス

第二條 一年志願兵ニハ所屬隊ヨリ糧食、被服、裝具、兵器、彈藥ノ現品ヲ給シ被服費、
裝具費、彈藥費及兵器修理費トシテ金六拾貳圓糧食費トシテ金參拾八圓ヲ納メシ
ム又騎兵科ニ入ル者ニハ馬匹ヲ貸與シ馬糧費、裝蹄費、剔毛費及馬藥費トシテ更ニ
金七拾五圓ヲ納メシム以上ノ金額ニテ不足ヲ生スルトキハ之ヲ追徴シ殘餘アルト
キハ之ヲ還付シ兵器ハ本人滿期ノ際之ヲ返納セシム

第三條 一年志願兵ハ在營セシムルヲ例トス但本人ノ願ニ依リ聯隊長 (聯隊ヲ爲サ
サル隊ニ在テハ該隊長以下同シ) 外泊ヲ許シ通勤セシムルコトヲ得

第四條 費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ハ糧食費外ノ費用ヲ官給ス

第五條 一年志願兵ハ總テ無給料トス其檢査往復並ニ入營退營旅費亦自辨トス

第六條 官費服役ヲ許スヘキ一年志願兵ノ定員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム
官費服役出願者前條ノ定員ヲ超過スルトキハ年少ノ者ヨリ順次次年ニ回シ入隊セ
シム

第七條 一年志願兵ハ現役滿期ノ後六箇年四箇月間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セ
シム

豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺
キタル年ハ服役年期ニ算セス

第八條 一年志願兵志願者ハ其願書ヲ一月三十一日迄ニ本籍ノ島司郡市長（東京京
都大阪ノ三市及沖繩縣ノ區ニ在テハ區長北海道ニ在テハ北海道廳支廳長又ハ區長
以下同シ）ヲ經テ居住地所管ノ師團長ニ差出スヘシ但徵兵令第十三條ノ學校卒業
者ハ卒業證書寫及戶主ニアラサルモノハ戶主二十歲未滿ノ者ハ戶主若クハ後見人
及親權ヲ行フ父又ハ母ノ承認書ヲ添付スルヲ要ス

島司郡市長ハ志願者ノ身元資産並ニ犯罪有無ノ證明書ヲ製シ其願書ニ添附スヘシ

三十三年
五月勅令
第二百四
十四號參
看

第九條 前條ノ志願者ニシテ一月三十一日迄ニ徵兵令第十三條ノ學校ヲ卒業セサル
者ハ其年十月三十一日迄ニ卒業スヘキ者ニ限リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證書寫
ニ換フルヲ得但卒業ノ上ハ直ニ卒業證書寫ヲ添ヘ師團長ニ届出ヘシ

第十條 師團長ハ第八條ノ志願者中學術試驗ヲ受クヘキ者ノ人員ヲ各検査場ニ區分
シ二月二十日迄ニ教育總監ニ通報シ又人名書ヲ身體検査ヲ爲サシムヘキ軍醫ニ下
付スルモノトス

第十一條 一年志願兵ノ學術試験格例ハ毎年陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 師團長ハ學術試験ヲ受クヘキ者ノ身體検査日時ヲ定メ北海道廳長官府縣
知事ニ通達シ本人ヲ検査地ニ召集ス

第十三條 師團長ハ軍醫ヲシテ學術試験ヲ受クヘキ者ノ身體検査ヲ爲サシメ其合格
者ハ陸軍將校生徒試験臨時委員ヲシテ學術試験ヲ行ハシム

第十四條 師團長ハ試験ノ成績ニ依リ及第落第ヲ定メ及第者ニハ一年志願兵認定證
書ヲ付與シ落第者ニハ其旨ヲ通知スヘシ

第八條但書ノ卒業者及第九條ニ當ル者ハ通常徴兵ト同時ニ身體検査ヲ爲シ合格者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ不合格者ニハ其旨ヲ通知スヘシ但第九條ニ當ル者ノ認定證書ハ同條但書ノ届出ヲ爲シタルトキ之ヲ付與スルモノトス

第四條ニ當ル者ハ認定證書ノ外別ニ官費服役證書ヲ付與スヘシ

第十五條 一年志願兵入隊期日ハ毎年十二月一日トス

第十六條 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ入隊スヘキ年ノ十一月三十日迄ニ第

二條若クハ第四條ノ金額ヲ所屬隊ニ納付スヘシ但入隊前外泊ノ許可ヲ受ケタル者

ハ第二條ノ糧食費ヲ控除シ納付スヘシ

第十七條 一年志願兵ノ教育ニ關シテハ聯隊長其責ニ任スルモノトス

第十八條 一年志願兵中勤務熟達品行方止ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ材幹アル者

ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ通常教育ノ外特別ノ教育ヲ授ケ更

ニ二ヶ月ノ後上等兵ト爲シ下士ノ勤務ヲ爲サシメ更ニ三箇月ノ後伍長ノ階級ニ進

メ諸勤務ヲ練習セシム其ノ一等卒上等兵ヲ命シ及伍長ノ階級ニ進ムルハ聯隊長ニ

於テスルモノトス

其服役滿期ニ際シテハ聯隊長終末試験委員ヲシテ終末試験ヲ爲サシメ其成績ヲ具シ師團長(旅團長ノ下ニ在ル聯隊長ハ旅團長ヲ經テ)ノ認可ヲ受ケ及第者ニハ終末試験及第證書ヲ授與シ軍曹ニ其落第者ハ伍長ニ任シ豫備役ニ編入ス

第十九條 前條及第二十二條ノ選ニ當ラサル者ハ入隊ノ月ヨリ起算シ六箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ三箇月ノ後上等兵ト爲シ通常教育ノ外下士タルノ教育ヲ授ケ服役滿期ノ際其成績優等ノ者ハ師團長ノ認可ヲ受ケ下士適任證書ヲ付與シ若クハ之ヲ付與セスシテ豫備役ニ編入ス

第二十條 第十八條及第二十二條ニ當ル者ニシテ疾病其他ノ事故ニ依リ豫備士官ト爲スノ見込ナキニ至リタルハ第十九條ノ例ニ準シ取扱フモノトス

第二十一條 醫學、藥學、理財學若クハ商業學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊(理財學、商業學卒業證書ヲ所持スルモノハ師團司令部所在地ノ步兵隊ニ限ル)ニ獸醫學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊、野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間隊

列勤務ヲ爲シ後半年ノ初ニ於テ軍醫生、藥劑生、獸醫生又ハ軍吏生トナリ各専門ノ勤務ニ練習スルコトヲ得志願ノ者ハ入隊ノ際其卒業證書寫ヲ添へ出願スヘシ
前項ノ獸醫生タラントスル者ハ第二條ノ馬匹ニ關スル納金ヲ要セス

第二十二條 前條ノ志願者中勤務勉勵品行方正ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ志操アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ二箇月ノ後上等兵ヲ命スヘシ之ニ軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ヲ命スルニハ師團監督部長若クハ軍醫部長、獸醫部長ヨリ師團長ノ認可ヲ受クルモノトス但軍吏生ト爲シタル者ハ下士ノ勤務ヲ爲サシム

一等卒及上等兵ヲ命スルハ聯隊長ニ於テスルモノトス

第二十三條 軍醫生ノ教育ハ該隊上級醫官、藥劑生ノ教育ハ衛戍病院長、獸醫生ノ教育ハ該隊上級ノ獸醫官、軍吏生ノ教育ハ師團監督部長各其責ニ任スルモノトス

第二十四條 軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ曹長同等ノ取扱ヲ受クルモノトス

第二十五條 軍醫生、藥劑生、獸醫生、及軍吏生ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際師團監督部長、軍醫部長若クハ獸醫部長終末試験委員ヲシテ終末試験ヲ爲サシメ其及第者ニハ(師團長ノ認可ヲ受ケ)終末試験及第證書ヲ授與シ豫備役ニ編入ス

其ノ落第者ニ在テハ軍醫生及藥劑生ニハ衛生部下士適任證書、獸醫生ニハ蹄鐵工長適任證書、軍吏生ハ之ヲ伍長ニ任シ之ニ計手適任證書ヲ付與シ豫備役ニ編入ス

衛生部下士適任證書ハ軍醫部長、蹄鐵工長適任證書ハ聯隊長之ヲ付與シ伍長ハ師團長ノ認可ヲ受ケ聯隊長之ヲ任シ計手適任證書ハ監督部長之ヲ付與ス

第二十六條 師團長及師團監督部長ハ毎年一年志願兵終末試験格例ヲ定メ豫メ之ヲ告達ス

第二十七條 終末試験委員ハ聯隊長、監督部長之ヲ編成ス

軍醫生、藥劑生、獸醫生ノ終末試験委員ハ師團長之ヲ編成シ軍醫部長及獸醫部長ノ指揮ニ屬ス

第二十八條 第十八條及第二十二條ニ依リ上等兵ト爲シタル者ハ成ルヘク兵卒ト居室ヲ異ニシ將校ト共ニ會食セシム

第二十九條 一年志願兵ノ服制ハ別ニ定ムルモノ、外其階級ニ應シ各兵科ノ下士兵卒ト同一トス但軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ該隊曹長ト同一トス軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ハ之ヲ命シタル日ヨリ襟ニ特別ノ徽章ヲ附ス

第三十條 戰時若クハ事變ニ際シテハ一年志願兵ト雖モ通常ノ現役勤務ニ服セシムルコトアルヘシ

第三十一條 一年志願兵入隊前禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ死亡シタルキハ其親族ヨリ該隊所管ノ師團長ニ届出ヘシ

第三十二條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止ヲ得サル事故ニ由リ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ添へ入營延期ヲ該隊所管ノ師團長ニ出願スヘシ

前項ノ事故アル者十二月三十一日ヲ過ルモ入隊シ難シト認ムルトキハ師團長之ヲ次年廻シト爲シ聯隊長本人ニ通知スヘシ

第三十三條 一年志願兵入隊シタルキ若クハ次年廻シト爲リタルトキハ本籍所管聯

隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ届出ヘシ

第三十四條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年十二月一日ニ入隊セサルトキハ一年志願兵ノ資格ヲ失フモノトス

第三十五條 一年志願兵中左ノ事項ニ當ル者ハ現役ヲ免シ第二國民兵役ニ服セシム但傷痕若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

一 傷痕若クハ疾病ニ依リ服役ニ堪ヘ難キトキ

二 本人ヲ要スルニ非サレハ家族自活シ能ハサル事故ヲ生シ其ノ家族ヨリ免役ヲ願出タルトキ

第三十六條 前條ノ家族自活シ能ハサル事故ニ由リ免役ヲ願出テントスル者ハ其ノ願書ニ近隣ノ戸主二名ノ保證書ヲ添へ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官沖繩警備隊區ニ在テハ該司令官ニ差出スヘシ但町村ニ於テハ町村長(町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者)ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊

司令官ニ送付シ同官ハ之ニ意見ヲ附シ願書ト共ニ聯隊長ニ移スヘシ

第三十七條 第三十五條ニ當ル者アルトキハ聯隊長ハ師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分
ス但シ一年志願兵認定證書付與後入隊前ノ者ニ在テハ師團長自ラ第二國民兵役ニ
服セシメ若ハ兵役ヲ免スルノ處分ヲ爲ス

第三十八條 明治廿七年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ豫備役後備役年期ハ

第七條ニ依ル但明治二十四年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ後備役年期ハ

豫備役年期ヲ通シテ十一年四箇月トス

第三十九條 臺灣總督府國語學校土語科ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ當分臺灣守備歩

兵隊ニ於テ服役スルコトヲ得

第四十條 前條ニ依リ服役スル者ニ關シテハ本條例中師團長ノ職務ハ臺灣守備混成
旅團長之ヲ行フ

混成旅團長ハ部下ノ將校及軍醫ニ一年志願兵検査委員ヲ命シ身體検査其ノ他徵募
ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ

第四十一條 第三十九條ニ依リ服役セント欲スル者ハ明治三十三年ニ限リ七月三十

一日迄ニ第八條ノ願書ヲ差出スコトヲ得

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本令施行前旅團長ニ差出シタル一年志願兵ノ願書ハ之ヲ師團長ニ引繼クヘシ

●陸軍省令第十二號 (明治二十九年五月十一日)

陸軍一年志願兵條例施行細則

第一條 條例第二條ノ所屬部隊ヨリ給スル被服ノ裝具現品ハ左ノ如シ

- 一 第一種帽 前立共
- 二 第二種帽
- 三 第一種衣袴
- 四 第二種衣袴
- 五 夏衣袴 二着
- 六 日覆
- 七 外套
- 八 脚絆
- 九 第一種手牒
- 十 背囊
- 十一 被服手入具
- 十二 飯盒
- 十三 水筒
- 十四 寢具

第二條 糧食自辨ノ者ハ行軍若クハ野外演習中ノ糧食費亦自辨トス

第三條 條例第八條ノ願書ハ附錄第一第二樣式ニ承認書ハ第三樣式ニ證明書ハ第四樣式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第三條ノ二 學術ノ試験ヲ受クヘキ者ハ身體檢査ノ際新タニ撮影シタル寫眞紙ニ裏面籍氏名ヲ自書 一葉ヲ檢査醫官ニ差出スヘシ

第四條 條例第十三條ノ身體檢査終レハ軍醫ハ其成績ヲ陸軍將校生徒試験臨時委員ニ通知シ條例第十條ノ人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格檢査表ヲ添ヘ師團長

三十三年
五月省令
第十一號
參看
三十二年
省令第十
一號參看

ニ報告シ師團長ハ其ノ身體検査ニ不合格ノ者(二十歳未滿者ヲ除ク)ノ體格検査表ヲ本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ送付スヘシ

願書差出後轉籍其ノ他止ムヲ得サル事故アリ他ノ師管ニ於テ検査ヲ受ケンコトヲ願出ル者アルトキハ甲乙師團長協議ノ上検査時日及場所ヲ定メ許可スルコトヲ得前項ニ依リ乙師團ニ於テ検査ヲ施行シタルトキハ其ノ成績ヲ甲師團ニ通知シ甲師團ニ在テハ其ノ師管内ニ於テ検査シタル者ト同一ノ取扱ヲ爲スヘシ

第五條 條例第十四條第二項ニ依リ身體検査ヲ爲スヘキ人名ハ師團長ヨリ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ達シ同官之ヲ島司郡市長ニ通達シ島司郡市長ハ検査ノ時日及場所ヲ告示ス可シ

願書差出後轉籍其ノ他止ムヲ得サル事故アリ他ノ聯隊區又ハ警備隊區ニ於テ身體検査ヲ受ケンコトヲ願出ル者アルトキハ甲乙聯隊區司令官又ハ警備隊司令官_{沖繩}又ハ警備隊司令官_{警備}以下同シ該協議ノ上検査時日及場所ヲ定メ許可スルコトヲ得

前項ニ依リ乙聯隊區又ハ警備隊區ニ於テ身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ成績ヲ甲聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ甲聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ其ノ聯隊區又ハ警備隊區ニ於テ検査シタル者ト同一ノ取扱ヲ爲スヘシ

第六條 身體検査終ル後聯隊區司令官又ハ警備隊司令官其人書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格検査表ヲ添ヘ師團長ニ報告スヘシ

師團長ハ其身體検査ニ不合格ノ者(二十歳未滿者ヲ除ク)ノ體格検査表ヲ本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ送付ス可シ

第七條 第四條及第六條ノ身體検査不合格ノ者ハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ其一時徵集ニ適セサル者ハ徵集延期ノ處分ヲ爲スヘシ

第八條 師團長ハ條例第十三條及第十四條第二項ノ検査ニ不參セル者並學術試驗ニ落第シ若ハ闕席シタル者(以上二十歳未滿者ヲ除ク)ヲ本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知ス可シ但シ身體検査ヲ受ケタル者ニ在テハ體格検査表ヲ添フヘシ

聯隊區徵兵官警備隊區徵兵官前項ノ通知ヲ受ケタルトキ該徵募區ノ抽籤施行前ニ在テハ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第九條 師團長ハ合格人員中所管外ノ衛戍地ニ於テ服役スヘキ者ノ人名書ニ各冀望ノ兵科及衛戍地ヲ記シ當該所管ノ師團長ニ通知スヘシ

同兵種二隊以上アル衛戍地ニ於テ服役冀望ノ者アルトキハ前項ノ通知ヲ受ケタル師團長其ノ隊其ノ隊號ヲ指定シ之ヲ居住地所管ノ師團長ニ通知スヘシ

第十條 條例第十四條ノ一年志願兵認定證書ハ附錄第五様式ニ官費服役證書ハ第六様式ニ依リ作ル可シ但條例第六條第二項ニ依リ次年廻シト爲ス可キ者ハ官費服役

證書ノ餘白ニ其旨ヲ記載スヘシ

第十一條 師團長ハ同兵種二隊以上アル衛戍地ニ服役セントスル者ノ隊籍ヲ定ムルニハ成ル可ク之ヲ各隊ニ平均ス可シ

官費服役者中醫學、藥學、理財學若クハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊（理財學、商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ師團司令部所在地步兵隊ニ限ル）ニ獸醫學卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ配賦ス可シ

第十二條 師團長ハ一年志願兵認定證書ヲ附與シタル者ヲ自費服役、官費服役次年回シ等ニ區別シ其人名書ニ體格檢査表ヲ添へ當該聯隊長（聯隊ヲ爲サ、ル隊ニ在テハ該隊長以下同シ）ニ下付スヘシ

第十三條 聯隊長ハ前條ノ一年志願兵ニシテ十二月一日ニ入隊セサル者アルトキハ其人名ヲ師團長ニ報告スヘシ但二十歳以上ノ者ニ在テハ尙本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知スヘシ

第十四條 條例第三十一條第三十二條第二項第三十四條及入隊前第三十五條ニ當ル者アルトキハ師團長之ヲ聯隊長ニ達スヘシ但二十歳以上ノ者ニ在テハ尙本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知スヘシ

前項ノ者官費服役者ナルトキハ條例第六條第二項ニ依リ次年廻シト爲シタル者ヲ繰上ケ十二月三十一日迄ニ入隊セシムルコトヲ得

第十五條 一年志願兵徵募事務終結後師團長ハ附錄第七様式ニ依リ一年志願兵人員表ヲ作り翌年一月十五日迄ニ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十六條 條例第二十一條ニ依リ軍醫生、藥劑生、獸醫生及軍吏生ヲ志願スル者アルトキハ聯隊長其願書及卒業證書寫ヲ師團監督部長若クハ軍醫部長若クハ獸醫部長ニ送付シ監督部長、軍醫長、獸醫長ヨリ師團長ノ認可ヲ受ケ後半年ノ初ニ於テ聯隊長ヲ經由シ之ヲ命スルモノトス

藥劑生ハ衛戍病院ニ軍吏生ハ師團監督部ニ派遣シ勤務ヲ練習セシムルモノトス

第十七條 軍醫生、藥劑生、軍吏生ト爲シタル者ハ貸與セシ兵器ヲ返納セシメ徒歩刀ヲ給ス獸醫生ト爲シタル者ハ軍刀或ハ砲兵刀ヲ除クノ外兵器ヲ返納セシム

第十八條 師團長ハ一年志願兵終末試驗終リタルトキ附錄第八様式ニ依リ成績表ヲ作り陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十九條 一年志願兵終末試驗及第證書ハ附錄第九様式ニ依リ各部各隊ニ於テ製ス可シ

第二十條 一年志願兵入隊前轉住其他止ヲ得サル事故ニ依リ隊籍變更ヲ願出ル者アルトキハ師團長之ヲ許可スルコトヲ得但所轄外ニ係ルモノハ豫メ當該旅團長ト協議スルヲ要ス

第二十一條 一年志願兵現役ヲ免シ若クハ死亡シタルトキハ實費ヲ精算シ殘金アレハ之ヲ還付ス

第二十二條 條例第三十九條ニ依リ服役スル者ニハ第一條ノ被服裝具中第一種帽ヲ給セス

第二十三條 條例第三十九條ニ依リ服役ヲ志願スル者ノ身體檢査ノ場所及志願者招集ノ手續ハ臺灣守備混成旅團長之ヲ定ム

第二十四條 臺灣ニ在テ第六條第八條第九條第十條乃至第十五條第十八條及第二十條中師團長ノ職務ハ臺灣守備混成旅團長聯隊區司令官ノ職務ハ一年志願兵檢査委員之ヲ行フ

附則

明治三十二年ノ志願者中近衛師團長ニ於テ願書ヲ受理シタル者ハ之ヲ第一師團長ニ引繼クヘシ但學術ノ試験ヲ受クル者ハ其ノ試験ヲ行ヒタル後之ヲ引繼クヘシ

第二樣式

一年志願兵服役願

私儀徵兵令第十三條ニ依リ服役中ノ費用全額ヲ自辨シ何地何兵隊ニ於テ一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候間御認可相成度別紙某學校卒業證書寫相添此段奉願候也

年月日

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留
華(士)族(平民)

氏名印

年月日生

何師團長(爵)氏名殿

條例第九條ニ當ル者ハ「卒業證書寫」ノ五字ヲ「長證明書」ノ四字ニ換ヘ戶主ニアラサル者及二十歳未滿ノ者ハ「相添」ノ上ニ「服役承認書」ノ字ヲ挿入シ學術試験ヲ受クヘキ者ハ「御認可」以下ヲ「學術御試験」ノ上御認可相成度別紙服役承認書相添此段奉願候也」ニ作ル

第二樣式

一年志願兵官費服役願

私儀徵兵令第十三條ニ依リ一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候處服役中ノ費用全額自辨ス可キ資力無之候ニ付糧食費ヲ自辨仕候間其他ハ官費ヲ以テ服役ノ儀御認可相成度別紙某學校卒業證書相添此段奉願候也

年月日

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留
華(士)族(平民)

氏 名 印

年月日生

何師團長(爵)氏名殿

第一樣式欄外ノ認駐ハ本樣式ニモ適用ス

第三樣式

一年志願兵服役承認書

氏 名

右者一年志願兵トシテ服役ノ儀承認致候就テハ服役中ノ費用金何圓

無相違上納可爲致候也

年月日

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留
戶主(後見人) 氏 名 印

年月日生

條例第四條ニ當ル者ハ本文「金何圓無相違上納」ノ八字ヲ「全額自辨スヘキ資力無之候得共糧食費金參拾八圓ハ無相違自辨」ノ字ニ換フ

二十歳未滿ノ者ニ在テハ戶主(後見人)ノ外親權ヲ行フ父又ハ母ノ連署ヲ要ス

第四様式

身元證明書

氏名

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ
- 一 何年何月罰金何圓ニ處セラルル或ハ何年何月何々ノ罰ニ處セラルル等
- 一 戸主或ハ本人何種公債證書或ハ株券金額何千何百圓ヲ所有スル等
- 一 戸主或ハ本人官廳或ハ會社等ヨリ受クル給料何千何百圓等
- 一 何々ノ所得年額何千何百圓等
- 一 右相違無之ニ付一年志願兵服役中ノ費用全額ヲ自辨シ得ルコトヲ證明ス

年月日

府(縣)島司(郡)市長 氏名印

條例第四條ニ當ル者ハ(右相違無之)云々ヲ「右相違無之候得共一家ノ生計ヲ立テ餘裕無之ニ付糧食費ノ外自辨シ能ハサルコトヲ證明ス」ニ作ル

第五様式

第 號

一年志願兵認定證書

府(縣)族籍

氏名

年月日生

陸軍一年志願兵タル資格ヲ具有スル者ト認定ス

但何兵第何聯(大)隊ニ於テ服役ス可シ

年月日

職(爵)氏名印

用紙十三行半葉罫紙

第九様式 (用紙鳥ノ子紙) 七寸八分

五寸六分

第 號

階級氏名

右一年志願兵終末試

驗ニ及第ス

年月日

職官位勳爵氏名印

六寸二分

●陸軍省令第二十一號 (明治二十三年七月八日)

陸軍下士兵卒休暇ニ關シ地方ニ係ル取扱及ヒ出願手續

- 一 陸軍下士兵卒ノ父母病氣又ハ死亡等ノ爲メ本人ノ歸郷ヲ要スルトキハ往復ヲ除キ二週日以内ノ休暇ヲ許ス其休暇ヲ願フトキハ親族ニ於テ願書ヲ作り病氣ナレハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ市町村長ハ區長以下同シノ奥書證印ヲ受ケ本人所屬ノ軍隊又ハ官衙ヘ宛差出スヘシ但掌務繁劇ナルトキハ許可セサルコトアル可シ
- 一 前項ノ外下士ニ在テハ毎年二週日以内ノ休暇ヲ與ヘ歸郷又ハ旅行ヲ許スコトアリ又營外居住ノ下士兵卒ニハ轉地療養ヲ要スルトキ本人ノ願ニ依リ四週日以内ノ休暇ヲ許スコトアルヘシ
- 一 休暇ヲ得テ歸郷又ハ旅行中發病ノ爲メ出發シ難キトキハ延期ヲ願フコトヲ得其延期ヲ願フトキハ本人又ハ親屬ニ於テ願書ヲ作り醫師ノ診斷書ヲ添ヘ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ本人所屬ノ軍隊又ハ官衙ヘ宛差出スヘシ
- 一 休暇ヲ得テ歸郷又ハ旅行ノ者如何ナル事故ニ遭遇スルモ前項ノ場合ヲ除クノ外休暇日數ヲ延ハスコトヲ許サス
- 一 途中發病川留船待雪支ニテ休暇日數ヲ超過スルトキハ醫師ノ診斷書或ハ市町村

陸軍下士兵關卒休暇ニシ地方ニ係ル取扱及出願手續

長ノ證明書ヲ請ヒ歸著ノ上差出スモノトス
一 休暇ヲ得テ歸郷又ハ旅行スル者ハ左式ノ休暇免許證ヲ携持シ陸軍定制ノ服ヲ著ス

六寸

表

目

休暇免許證



兵種隊號(所管)

官(兵卒職工) 姓 名

職官 姓 名 印

裏

一 此證書ハ表記ノ者ニ休暇ヲ與フルノ證トス

一 休暇日數何日(往復日數何日)

一 何月何日何地出發何地ニ至リ何月何日何時マ

テニ必ス何地ニ歸著スヘシ

年 月 日

一 市町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區長又ハ戸長ニ於テ取扱ヘシ

●陸軍省令第六號（明治三十二年三月二十二日）

陸軍志願兵身體檢查規則

第一條 陸軍志願兵身體檢查ハ其ノ身體ノ合格ト不合格トヲ判別スルモノトス

此ノ檢查ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

此ノ規則ハ陸軍士官候補生並諸生徒志願者ニモ適用ス

第二條 志願者身長ノ定限ハ五尺以上トス但別ニ定ムル所アルモノハ此ノ限ニアラス

第三條 志願者ノ體格ヲ區別スルコト左ノ如シ

一 甲種 身體強健ナル者

二 乙種 身體甲種ニ亞ク者

三 丙種 前二項ニ當ラサル者及身長定限ニ達セサル者

第四條 前條ノ甲種乙種ヲ合格トシ丙種ヲ不合格トス

第五條 丙種トナスヘキ者概テ左ノ如シ

一 全身發育不全ナル者

二 精神機能ニ妨アル者及諸種ノ神経系病ニシテ急治スヘカラサル者

- 三 諸種ノ内臓疾患ニシテ急治スヘカラサル者
- 四 視力ニ障碍アル者但一年志願兵、士官候補生、軍醫學校生徒、衛生部獸醫部依託學生及同依託生徒志願者ハ近視ニ限リ其ノ度ヲ斟酌シテ特ニ合格トナスコトヲ得
- 五 聽機ニ障碍アル者
- 六 咀嚼、言語ノ機能ニ妨アル者
- 七 骨軟部ノ疾患ニシテ急治スヘカラサル者
- 八 諸種ノ癩痕、畸形、缺損等ニシテ醜形甚シク又ハ運動ニ妨アル者

●勅令第八十七號 (明治二十五年十月六日)

海軍軍人結婚條例

- 第一條 海軍軍人結婚ヲ爲スニハ將官並同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ上長官士官准士官ニ在テハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 各候補生ハ結婚スルヲ得ス
- 第三條 現役下士ハ年齢滿二十五歳以上ニ至ラサレハ結婚スルヲ得ス
現役卒ハ年齢滿二十五歳以上ニシテ一等卒ニ進級シタル後ニ非サレハ結婚スルヲ得ス

- 第四條 配偶者タルヘキ婦人ハ行狀端正ニシテ年齢十六歳以上ナルヲ要ス
附 則

- 第五條 海軍武官結婚條例ハ本條例發布ノ日ヨリ廢止ス

三十三年
八月勅令
第三百四
十五號參
看

●勅令第二百二十七號 (明治三十一年十月一日)

陸軍戸山學校條例

第一條 陸軍戸山學校ハ學生ニ戰術、射擊、體操並劔術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ
進歩ヲ圖リ常ニ諸科學術ノ調査研究ヲ爲シ且攜帶火兵ノ研究及試験ヲ行フ所トス

第二條 學生ヲ分テ左ノ三種トス

一 戰術科學生ハ歩兵大中尉ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ歩兵少尉或ハ要塞砲兵及
工兵士官ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

二 射擊科學生ハ步、騎、砲、工、輜重兵士官ヲ以テ之ニ充ツ

三 體操劔術科學生ハ步、騎、砲、工、輜重兵士官及下士ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 戰術及射擊研究ノ爲メ時トシテ佐官ヲ召集スルコトヲ得但修學期日ハ其時
々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第四條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導大隊ヲ置キ步兵隊
ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 大中佐

副官 大中尉

教官 中少佐、大中尉、軍醫

教導大隊長 中少佐

教導大隊副官 中尉

教導大隊中隊長 大尉

教導大隊附 中尉

軍醫

軍吏

准士官、下士、判任文官

第六條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任シ陸軍軍樂學校ヲ管轄ス

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ戰術、射擊並體操劍術科學術ノ授業ヲ分擔シ且其各科ニ於ケル學術ノ調査研究並携帶火兵ノ研究及試験ニ任シ各科中高級故參ノ教官ヲ以テ科長トス

第九條 教導大隊ノ大隊長以下ノ服務ハ軍隊內務ノ定則ヲ適用ス

第十條 學生ノ修學期左ノ如シ

戰術科學生ハ概テ四箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム

射擊科學生ハ步兵ニ在リテハ概テ四箇月其他ノ兵科ニ在リテハ概テ二箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム

體操劍術科學生ハ概テ七箇月トシ毎年一回入校セシム

第十一條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ各科ノ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘテ戸山學校長ニ送達セシムヘシ

第十三條 學生士官ハ校外ニ同下士ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、彈藥、書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但下士學生ハ所屬隊ヨリ其武器、

被服、裝具ヲ携行セシム

第十四條 學生中ノ願届其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十五條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十六條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ教育總監ノ認可ヲ請ケ士官ニ在テハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニ在テハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ又下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與シ學生ヲ歸隊セシム

第十七條 教導大隊ハ分遣ノ下士ハ現役尙二箇年以上ノ期アル者兵卒ハ前年十二月入營ノ者中ヨリ選拔スヘシ

第十八條 教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム

第十九條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十條 演習上ノ必要ニ依リ砲工學校校馬ヲ使用スルコトヲ得

●海軍省令第十九號 (明治三十二年七月二十八日)

海軍召集諸費支出規程

第一條 充員召集及大演習召集ニ要スル諸費ハ臨時費ニ屬シ小演習召集ニ要スル諸費及簡閱點呼ニ要スル旅費ハ經常費ニ屬ス

前項ノ費途ハ充員召集ニ在テハ被召集員及吏員ノ旅費郵便電信料及使丁賃ヲ支辨シ演習召集及簡閱點呼ニ在テハ被召集員ノ旅費ヲ支辨ス

第二條 充員召集及演習召集ニ際シ其ノ諸費支出ニ係ル事務ハ晝夜ヲ分タス之ヲ處辨シ其ノ通達ニハ至急官報ノ電信其ノ他確實迅速ノ方法ヲ用フヘシ

第三條 召集諸費ノ調査ハ毎年一回トス但シ其ノ年ノ概算表金庫ニ到達スル迄ハ前年ノ概算表ヲ有効トス

第四條 郡市長ハ毎年一月一日ニ現在スル其ノ管轄地内ニ於テ充員召集ニ應スヘキ海軍豫備役後備役下士卒ノ召集旅費ヲ計算シ海軍召集旅費概算表(第一様式)一通ヲ作り二月十五日迄ニ當該鎮守府ニ送付スヘシ

前項ノ概算表送付ノ後被召集員増加シ旅費額不足ノ爲メ支給上支障アリト認ムルトキハ更ニ増加人員ニ對スル旅費ヲ計算シテ召集旅費追加概算表(第一様式ニ準ス)一通ヲ作り送付スヘシ

第五條 市長ハ前條第一項ノ概算表ヲ送付スルト同時ニ海軍豫備役後備役下士卒召集旅費人別表(第二様式)ヲ作り當該稅務署長ニ送付スヘシ

前項ノ召集旅費人別表送付ノ後被召集員ニ増減異動ヲ生シタルトキハ増減ニ在テハ召集人別増減表(第二様式ニ準ス)ヲ作り異動ニ在テハ異動報告書(様式適宜)ヲ作り送付スヘシ

第六條 郡長及稅務署長 召集諸費ノ支出ヲ掌ル稅務署長ヲ云フ以下同シ

ハ充員召集ニ際シ召集諸費支出ニ要スル吏員ノ旅費郡市役所稅務署町村役場戶長役場及之ニ準スヘキモノニ要スル郵便電信料及使丁賃ヲ計算シテ召集諸費概算表(第二様式)一通ヲ作り二月十五日迄ニ當該鎮守府ニ送付スヘシ但シ市役所ニ於テ要スル郵便電信料及使丁賃ハ當該稅務署ノ計算ニ併セ其ノ他ニ於テ要スルモノハ當該郡役所ノ計算ニ併スルモノトス

ス

第七條 地方長官、警視總監、憲兵隊長 東京府ニ在テハ憲兵司令官トス以下同シ

ハ充員召集ニ際シ憲兵、警察官吏ノ出張旅費、道廳、府縣廳、警視廳、警察署、警察分署、巡查駐在所、巡查派出所、憲兵司令部、憲兵隊本部、憲兵分隊本部、憲兵分隊支部、憲兵屯所、憲兵分屯所ニ要スル郵便電信料使丁賃ヲ計算シテ召集諸費概算表(第三様式)一通ヲ作り二月十五日迄ニ當該鎮守府ニ送付スヘシ

第八條 鎮守府司令長官ハ前各條ノ概算表ヲ受領シタルトキハ之ヲ調査シ更ニ海軍召集諸費概算表(第四様式)一通ヲ作り三月三十一日迄ニ海軍省ニ差出スヘシ但シ追加概算表ヲ受領シタルトキハ更ニ海軍召集諸費追加概算表ヲ作り其ノ時々差出スモノトス

第九條 海軍省ハ毎年一月一日ニ現在スル海軍豫備役後備役准士官以上ノ召集旅費ヲ計算シ第四條ニ準シテ海軍召集旅費概算表ヲ作り之ニ前條ノ概算表ヲ併セテ更ニ海軍召集諸費概算表(第五様式)ヲ作り四月三十日迄ニ大藏省ニ送付ス

前項ノ概算表送付ノ後追加概算表ヲ受領シ若ハ之ヲ作リタルトキハ前項ニ準シ更ニ海軍召集諸費追加概算表ヲ作り其ノ時々之ヲ送付ス

第十條 召集諸費ノ委任仕拂命令官ハ海軍省ニ在テハ經理局第一課長鎮守府ニ在テハ鎮守府經理部長トス

第十一條 召集諸費ノ出納官吏 現金ノ前渡ヲ受クル官吏ヲ云フ以下同シハ海軍省經理局課僚、郡長、稅務署長、及道廳、府縣廳、警視廳、憲兵隊ノ主任官吏トス但シ本條ノ外必要ト認ムルトキハ 郡書記北海道ニ在テハ支廳屬、島嶼ニ在テハ島廳書記、市制町村制ヲ施行セサル地方ノ區ニ在テハ區書記以下同シ 稅務屬其ノ他ノ官吏ニ分任出納官吏ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該所屬長官之ヲ命免スヘシ

第十二條 地方長官、警視總監、憲兵隊長、稅務管理局长ハ前條出納官吏ノ官職氏名ヲ當該委任仕拂命令官ニ通知シ當該委任仕拂命令官ハ之ヲ海軍省經理局长ニ報告スヘシ爾後異動アルトキ亦同シ但シ分任出納官吏ノ官職氏名及第二十一條ニ據リ出納官吏代理者ヲ命免シ又ハ計算書調製者ヲ任命シタルトキハ召集終ルノ後之ヲ

通知スヘシ

本條第一項ニ據リ通報スル出納官吏ノ氏名ニハ其ノ氏名ノ右傍ニ片假名ヲ付スヘシ

第十三條 出納官吏ハ左ノ區分ニ從ヒ召集諸費ノ支出ヲ擔任スヘシ

- 一 海軍省經理局課僚 准士官以上ノ召集旅費
- 二 郡長稅務署長 下士卒ノ召集旅費、第六條ノ旅費、郵便電信料及使丁賃
- 三 道廳、府縣廳、警視廳、憲兵隊ノ主任官吏 第七條ノ旅費郵便電信料及使丁賃

第十四條 地方長官ハ平時ニ於テ郡市長ヲシテ召集旅費支給場ノ位置ヲ定シメ其ノ支給場ニ於テ支給スヘキ地方區域ヲ管内ニ告示シ且ツ當該鎮守府海兵團長ニ通知スヘシ

第十五條 召集旅費ヲ支給スヘキ出納官吏ハ平時ニ於テ爲シ得ル限り旅費支給ノ準備ヲ爲シ置クヘシ其ノ下士卒ニ關スルモノハ平時ニ於テ海軍召集旅費領收證書(第六樣式)ヲ作り置クヘシ